者ヲ辞職者ト看做シ其後任ヲ命セラレンヿヲ
帝王ニ上奏スルヿヲ得
○第四十九條　控訴院及ヒ始審裁判所ノ長ハ
其職権ニ因リ又ハ検察官ノ請求ニ因リ凡テ裁
判官ニシテ其職裁判官タルノ面目ヲ汚ス者ニ
注意ス可キ旨ヲ命ス可シ
○第五十條　若シ注意ニシテ其効無キ時ハ裁
判官ハ懲戒トシテ以下懲罰ノ一ニ処セラル可
シ即チ
告戒
譴責
停職
譴責ヲ受ケシ時ハ申渡ヲ用ヒス一ケ月間ノ罰
俸ニ処セラレ停職ヲ受ケシ件ハ其間罰俸ニ処
セラル可シ
○第五十一條　始審裁判所ニ於テ宣告セシ判
定申渡ハ之ヲ執行スル前其所ノ検事ハ其書類
ヲ控訴院大検事ニ送致シ控訴院ノ調査ニ付ス
可キモノトス
○第五十二條　第五十條ニ定ムル所ノ懲罰ヲ
適用スルハ其始審裁判所裁判官又ハ其郡内（始
審ノ管轄區）ノ治安裁判官又ハ違警罪裁判官ニ
関スル時ハ始審裁判所會議局ニ於テス可シ
若シ控訴院又ハ重罪裁判所ノ者ニ関スル時ハ
控訴院會議局ニ於テ其適用ヲ為ス可シ
○第五十三條　前條ニ定ムル所ノ懲罰ニ処セ

ラル可キ者ナル時ハ設ヒ判事補ニテ職務ヲ行ヒシ時ト雖モ其際職務上守ル可キ事ヲ守ラサル者ニモ適用セラル可シ

○第五十四條　始審裁判所其懲戒ノ権ヲ行ハサル時ハ控訴院ハ代リテ其権ヲ行フ可シ

此場合ニ於テハ控訴院ハ該裁判所ニ以後慎ム可キ旨ノ注意ヲ為スヲ得可シ

○第五十五條　訴ヘラレタル裁判官ノ辯論ヲ聽キ又ハ相当ノ手続ヲ経テ呼出シ且始審裁判所検事又ハ控訴院大検事其意見書ヲ差出タル後ニ非サレハ判定申渡ヲ為スヲ得ス

○第五十六條　何レノ場合ニ於テモ控訴院大検事ヨリ控訴院ニ於テ申渡セシ判定ニ付大判事即チ司法卿ニ具申ヲ為ス可シ申渡カ譴責又ハ停職ニ関スル時ハ大判事ノ認可ヲ経シ後ニ非サレバ之ヲ執行スル丁ヲ得ス但シ停職ノ場合ニ於テハ裁判官ハ大判事ノ命令アル迄其職務ヲ行フ可カラズ尤モ事重大ニシテ大審院ニ移スヲ要スル時ハ大判事ニハ共和十年第十一月十六日ノ元老院決議第八十二條ヲ以テ附与シタルノ権アリトス

○第五十七條　大判事即チ司法卿ハ必要ナリト思考スル時ハ其訴ヲ受ケタル事実ニ付分疏スル為メ控訴院及ヒ始審裁判所ノ職員ヲ己レノ面前ニ召喚スルヿヲ得可シ

○第五十八條　凡テ裁判官ニシテ拘留収監状

又ハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケ又ハ軽罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ設ヒ控訴中ト雖モ仮ニ其職務ヲ停止セラル可シ

第五十九條　法官ニ對スル刑ノ申渡ハ違警罪ノ場合ト雖モ之ヲ司法卿ニ上申ス司法卿ハ之ヲ検閲シタル後必要ト看認ムルトキハ其法官ヲ大審院ニ告発シ司法卿其裁判長ト為リ事情ノ軽重ニ循ヒ之ニ免職又ハ停職ヲ申渡スヘシ

第六十條　検察官懲戒スヘキ所行アル時ハ其管轄大検事之ヲ告戒シ之ヲ司法卿ニ具申ス司法卿ハ其情状ノ軽重ニ循ヒ其必要ト看認ムル処置ヲ為スコトヲ大検事ニ命シ又ハ其者ヲ召喚ス

第六十一條　控訴院又ハ重罪院ハ其院検察官カ職務上ノ義ニ背キタル時又ハ其名誉光ヲ汚損シタル時ハ之ヲ司法卿ニ上申スヘシ

始審裁判所ハ其裁判所及ヒ管内各違警罪裁判所ノ検察官ニ懲戒スヘキノ所行アリト看認ムル時ハ之ヲ控訴院長及ヒ大検事ニ上申スヘシ

第六十二條　書記ハ其在職スル控訴院長裁判所長ノ告戒ヲ受ケ若シ必要ナルトキハ司法卿ニ告発セラル

改正法官懲戒例

千八百八十三年八月三十日裁判所組織改革ニ関スル法ヲ以テ法官懲戒例ニ改正ヲ加ヘタリ

改正ノ第一点　懲戒権ノ執行

八十三年以前ハ共和十年第十一月十六日ノ元老院裁定、千八百十年四月二十日ノ法第七章、千八百五十二年三月一日ノ法律布達第四條第五條ノ諸條例ヲ折衷シ懲戒権ヲ始審裁判所、控訴院、大審院ニ於テ共ニ執行シ来リシガ新法ハ獨リ大審院ニノミ此権ヲ付属シタリ即チ左ニ

第十三條　大審院ヲ以テ法官ノ上等會議ト

又但シ右ノ資格ヲ以テ裁定ヲ為スニハ必ス各局判事ノ総會ヲ要ス○上等會議ニ於テハ

大審院ノ検事長改府ノ名代タルヘシ

第十四條　共和十年第十一月十六日ノ元老院裁定第八十二條、千八百十年四月二十日ノ法第七章及ヒ千八百五十二年三月一日ノ法律布達第四條第六條ニ從ヒ從来大審院、控訴院及ヒ始審裁判所ガ共ニ有セシ懲戒權ヲ自今單トリ大審院ニ付属シ大審院及ヒ控訴院ノ長、局長、判事、判事補ニ對シテ之レヲ執行セシム

法官ニハ総テ政事上ノ事ヲ議スルヲ禁ス

法官ハ共和ノ主義及ヒ共和ノ改体ニ背反セルヿヲ為シ又ハ論スルヿヲ得ス

右ノ條例ニ違フモノハ懲戒ヲ受クヘキ過失アリトス

改正ノ第二点　任所ノ移轉

從前法官ニハ啻ニ罷職ヲ余セサルノミナラス（特別ノ場合ノ外）猶ホ不動官（イナモダリテー）ノ原則ヲ任所ニ迄擴及シテ任所ヲ移轉スルヿヲ許サヾリシ新法ハ任所移轉ヲ許シテ更ニ一箇ノ懲戒ノ罰トナセリ即チ

第十五條　（前畧）上等會議ノ同意ヲ得ハ控訴院ノ長、局長、判事、始審裁判所ノ長、副長、判事、判事補ヲ轉任セシムルヲ得但轉任ニ依テ職務ヲ変更シ官等ヲ降シ若クハ俸給ヲ減スルヿナカルヘシ

不治ノ大病ニ罹リ職務ヲ行フ能ハサルニ至

リタル司法官ハ上等會議ノ同意ヲ得テ退職セシムルヿヲ得但上等會議ノ意見ハ千八百二十四年六月十六日ノ法律ニ記載シタル法式ト箇條トニ從ヒ之レヲ述フルモノトス

改正ノ第三点　司法卿ノ權力

第十六條　司法卿ノ要求アルニアラサレハ上等會議ヲ開クヿヲ得ス開會ノ時ハ會議ノ目的タル法官ノ陳述ヲ聽キ若クハ之ヲ召喚シタル上ニアラサレハ裁判ヲ為シ又ハ意見ヲ述フルヿヲ得ス

第十七條　司法卿ハ民商法裁判所ノ法官ヲ監督（シヒルベイエー）スルノ權ヲ有ス

同卿ハ譴責狀ヲ送付スルヿヲ得而メ之レヲ受クヘキ本人大審院及ヒ控訴院ノ局長、判事又ハ裁判所ノ長、判事、補ナルトキハ院長ヨリ又檢察官ナルトキハ檢事長ヨリ本人ニ付与スヘシ

又同卿ハ何レノ法官タルヲ論セス其所為ヲ取糺ス為メニ召喚スルノ權アリ

改正ノ第四点　舊條例廢止

第十九條　左ニ掲クルモノハ総テ廢止ス

共和十年第十月十六日ノ元老院裁定第八十三條

千八百十年四月二十日ノ法第五十一條ヨリ第五十六條マテ

千八百二十四年六月十六日ノ法中前第十三

條ニ抵觸スル條件

千八百二十八年九月二十七日ノ布令第三條

千八百三十八年四月十一日ノ法第三條ヨリ

第六條マテ

其他前ノ條例ニ抵觸スル旧諸條例

右ノ箇條ニ依テ考フレハ千八百十年四月二十

日ノ法中懲戒例ニ関スル第七章ノ四十八條ヨ

リ六十二條ニ至ル第五十一條ヨリ第五十六條

マテハ廃止ニ属スレ其他ハ今日ニ於テ現存

スルモノナリ即チ

第五十條ニ掲クル懲戒ノ罰諭告、罩紀ノ訓戒、

譴責ノ付加セシ訓戒、及リノ停職ハ今ニ存在

スヘシ

又第五十九條ニ記スル罪ヲ犯シテ刑ニ処セ

ラレタル司法官ノ職ヲ罷ムヿヲ得ルノ條例

モ存在スヘシ（真正ノ犯罪ニ依テ罰セラレタ

ル牛）又共和十年第十一月十六日ノ元老院裁

定第八十二條ニ破毀院ハ控訴院及ヒ重罪裁

判所ニ對シテ訓戒及ヒ懲戒ノ權ヲ有シ重要

ノ事件ニ付テハ判事ノ職務ヲ停止スルヿヲ

得トアルモ存在スヘシ

又千八百五十二年三月一日ノ法第四條ニ控

訴裁判所始審裁判所ノ法官ニ懲戒令ニ依テ

職務停止ヲ命シタル牛ハ其判決ヲ司法卿ニ

差出スヘシ司卿ハ破毀院ニ告訴シ破毀院ハ

破告法官ヲ聽糺シタル上ニテ職務ヲ罷ムル

ヿヲ余スヿヲ得（新法ニ依レハ停止ノ判決ヲナスモノモ亦タ破毀院ナルヘシ）

同第五條ニ共和十年ノ法第八十二條ニ依テ最初ヨリ破毀院ニ法官ヲ召喚スル場合ニ於テモ亦職務ヲ罷ムルヿヲ余スルヲ得」トアルモ共ニ存在スヘシ（此二條ハ懲戒例ニ依テ罰セラレタルヿニ関ス）

（訳者案スルニ故ナクシテ法官ヲ免職スルハ不動官ノ原則ノ許サヽル所ナレモ犯罪等ノ重要ナル場合ニ於テ特ニ懲戒ノ罰トシテ罷職ノ例ヲ設クルハ不可ナキカ如シ）

法官ノ退職及ヒ懲戒ニ関スル千八百五十二年三月一日布達

第一章　退職

第一條　破毀院判事ハ満七十五歳ニ至ルヿ又控訴院及ヒ始審裁判所判事ハ満七十歳ニ至ルヿ必ス退職セシムヘシ

第二條　年齢ノ故ヲ以テ退職シタル法官ハ職務ノ為メニ疾病ヲ釀シタルヿヲ証明スルヲ要セスシテ現行法令ノ定ムル恩給ヲ受クヘシ

第三條　第一條ニ定ムル年齢ニ至リタル法官ハ代理ノ余セラレタル上ニアラサレハ其職ヲ止ムヘカラス

第二章

第四條　控訴院始審裁判所ノ不動法官懲戒令ニ依テ職務停止ヲ命セラレタル件ハ判決書ヲ司法卿ニ呈出シ同卿ヨリ仕直ニ依テ破毀院ニ告訴スヘシ○破毀院ハ事実ノ軽重ニ從ヒ被告法官ヲ會議局ニ於テ取調タル上罷職ヲ命スルヿヲ得ヘシ

第五條　第十年「テルミドール」月元老院裁定書ノ第八十二條ヲ以テ定ムル場合ニ於テ直チニ破毀院ニ召喚シタル法官ニ対シテモ亦罷職ヲ命スルヿヲ得ヘシ

○第二編　陸軍裁判所ノ管轄

○総則

第五十三條　陸軍裁判所ハ公訴事件ニアラサレハ審判セス但シ此法律第七十五条ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラス

然ルトキハ陸軍裁判所ハ没収ノ言渡ヲナサヽルトキニ於テ差押タル物件又ハ証據物件ヲ其所有者ニ返還ス可キノ旨ヲ言渡スヿヲ得可シ

第五十四條　私訴ハ民事裁判所ニアラサレハ之ヲ起スヿヲ得ヘカラス私訴ヲ起ス前又ハ私訴中ニ公訴アルトキハ其公訴ノ終結裁判アル迄ハ私訴ノ執行ヲ停止ス可シ

○第一卷　軍法會議ノ管轄

第一章　平時軍管内ノ常置軍法會議ノ管轄

第五十五條　徵兵法、授官辞令書又ハ委官状ニ依リ陸軍ニ属セル者ハ以下數條ニ定メタル區別ニ從ヒ平時軍管内ノ常置軍法會議ノ審判ヲ受ク可シ

第五十六條　左ノ軍人ノ犯シタル重罪軽罪ハ平時軍管内ノ軍法會議ノ審判ヲ受ク可シ但シ本編第四卷ニ記載セル例外ハ此限ニ在ラス

一　士官、下士官、伍長、騎兵伍長、兵卒、樂卒、兵児

陸軍監督部員

軍醫、藥劑官、軍獸醫、諸務士官

王令又ハ構成布告ヲ以テ軍人ト同視サレタル者

以上ニ掲ケタル者ハ現役ニ服スルカ軍隊人名簿ニ登記アルカ又ハ特別ノ勤務ヲ以テ陸軍ニ附属スルトキ軍法會議ノ審判ヲ受ク可シ

二　通常又ハ陸軍病院ニ在リ又ハ公力ノ引致ニ依リテ旅行シ又ハ陸軍ノ監獄刑場ニ在ル軍人、若卒、代兵、志願就役兵、又ハ軍属

三　老兵院ノ人名簿ニ記載シアル士官下士官伍長兵卒

四　在宅ノ許可アル若兵及ヒ無期休暇中ノ

軍人但シ千八百三十二年三月二十一日ノ法律第三十条ニ定メタル検閲又ハ演習ニ徴集サレタルトキニ限ル可シ

軍属モ亦タ軍法會議ノ審判ヲ受ク可シ

第五十七條　又タ総テノ軍人、陸軍監督部員其他軍属ハ左ノ場合ニ限リ第四編第二卷ニ記載セル重罪軽罪ニ付テノミ平時軍管内ノ常置軍法會議ノ審判ヲ受ク可シ

第一　現職ニ在ラスト雖トモ俸給ヲ受ケ尚オ武官中ニ在ルトキ

第二　休暇又ハ休暇免許中ニ在ルトキ

第五十八條　若卒志願就役兵及ヒ代名ハ其発程令ヲ受ケタルトキヨリ分遣隊ニ合シ又ハ本隊ニ着スル迄ノ間ハ違令犯ノ外ハ軍法會議ノ審判ヲ受可キモノニ非ス但シ第五十六条第二項第三項ニ記載セル場合ハ此限ニ在ラス

第五十九條　憲兵士官其下士官憲兵卒ハ司法警察事務及ヒ行政上ノ犯罪検証事務中ニ犯シタル重罪及ヒ軽罪ニ付テハ軍法会議ノ審判ヲ受ヘキモノニアラス

第六十條　軍法会議ノ審判ヲ受ク可キ者訴会議ノ管轄タル重罪又ハ軽罪ノ訴ヲ受ケ同時ニ普通裁判所ノ管轄タル他ノ重罪又ハ軽罪ノ訴ヲ受ケタルトキハ最モ重キ刑ヲ科ス可キ事件ヲ審理ス可キ裁判所ニ引致シ其後チ他

ノ夏件ニ付キ管轄ノ裁判所ニ送付スヘシ

二個ノ刑ノ申渡アル可キ場合ニ於テハ一ノ重キ刑ヲ科ス可シ

二個ノ重罪又軽罪其刑同シキトキハ被告人ハ軍夏裁判所ノ管轄タル夏件ニ付テ裁判セラルル可シ

第六十一條　被告人ハ重罪又ハ軽罪ヲ犯シタル場所ノ管轄軍法会議又ハ逮捕サレタル地ノ管轄軍法会議又ハ其本隊或ハ分遣隊ノ衛所ノ管轄軍法会議ニ引致セラル可シ

第二章　軍中及ヒ合圍ノ地ノ軍法會議ノ權限

第六十二條　重罪又ハ軽罪ヲ犯シタル時軍中ノ軍法會議ニ於テ審判ス可キ者ハ左ノ如シ

一　合圍ノ地ニ非サル軍管ナリト雖モ尚ホ軍法會議ニ於テ審判ス可キ者

二　其名義ノ何タルヲ問ハス參謀及ヒ軍隊附屬ノ勤務ニ從事スル者

三　糧食ノ支給ヲ掌ル男女、飲料ノ支給ヲ掌ル男女、洗濯ヲ掌ル婦人、商人、僕、及ヒ其他凡テ許可ヲ得テ軍隊ニ隨從スル者

第六十三條　敵地ニ在テハ此刑法第四編第二卷ニ定ムル所ノ重罪又ハ軽罪ノ正犯從犯共ニ總テ之ヲ軍法会議ニ於テ審判ス可シ

第六十四條　設ヒ軍隊佛國内ニ在リト雖モ敵前ニ臨ミ其管轄内ニ於テ重罪軽罪ヲ犯シタ

ル時ハ軍法会議ニ於テ審判スヘキ者ハ左ノ如シ

一 前條ニ定ムル所ノ重罪輕罪ヲ犯シタル外國人

二 以刑法第二百四、二百五、二百六、二百七、二百八、二百四十九、二百五十、二百五十一、二百五十二、二百五十三、二百五十四條ニ於テ定ムル重罪ノ正犯從犯（反乱、間諜等ノ罪）

第六十五條 軍人ハ大尉以下又同等ノ軍屬ハ其所屬師團又ハ分遣隊ノ軍法會議ニ於テ審判スルモノトス

第六十六條 左ノ者ハ其軍團ノ本營ノ軍法会議ニ於テ審判スヘシ

一 大佐以下ノ本營所屬軍人及ヒ同等ノ軍屬

二 大隊長、騎大隊長、參謀官、中佐、大佐及ヒ其分隊附屬ノ同等ノ軍屬

第六十七條 左ノ被告人ハ軍隊本營ノ軍法会議ニ引致セラルヘシ

一 前条ニ掲ケタル軍人軍屬但シ其所屬ノ軍團ノ本營ニ軍法會議ノ設ケアラサル時

二 本營ニ屬スル軍人其他ノ者

三 師團又ハ軍團ニ屬セサル軍人軍屬

四 將官及ヒ將官相當ノ者然ヒ首將ハ其見

之ニ依リ其被告人ヲ陸軍卿ノ処置ニ委ヌルヿヲ得可シ其場合ニ於テハ被告人ハ最近ノ軍管ノ軍法会議ニ引致セラル可シ

第六十八條　軍人軍属ニ非スシテ軍中軍法会議ノ審判ヲ受ク可キ者ハ重罪又ハ軽罪ヲ犯シタル場所ニ近接セル軍中軍法會議又ハ逮捕ノ場所ノ軍中軍法会議ニ引致セラル可シ

第六十九條　軍中軍法会議ニ付テ定メタル管轄ノ規則ハ皇帝ノ敕令ヲ以テ戰地ト布告サレタル軍管内ニ適施ス可シ

第三章　合囲ノ邑、州及ヒ合囲セラレ又ハ連絡ヲ絶タレタル城塞ニアル軍法會議ノ権限

第七十條　合囲ノ邑、州及ヒ合囲セラレ又ハ連絡ヲ絶タレタル城塞ヲ管轄スル軍法會議ハ上文第六十三条及ヒ第六十四条ニ循ヒ軍中ノ軍法会議ニ於テ裁判スヘキ者ノ犯シタル重罪及ヒ軽罪ヲ審判ス但千八百四十九年八月九日ノ合囲地境ニ関スル法律ノ適用ニ牴觸セサル者トス

第四章　前三章ニ通スル規則

第七十一條　軍法會議ノ裁判ニ對シテハ覆審會議ニ上告スルコトヲ得

刑ノ宣告ヲ受タル者カ第三十三條第三項ニ循ヒテ設ケラレタル軍法會議ノ裁判ニ對シ覆審會議ヘ上告スルノ權ハ國ノ主宰カ諸省卿ノ會議ヲ以テ為シタル布告ヲ以テ一時軍中ニ於テ之ヲ停止スルコトヲ得

合圍セラレ又ハ連絡ヲ絶タレタル要塞ノ上官師令官ハ常ニ此ノ停止ヲ命スルノ權ヲ有ス

何レノ場合ニ於テモ此ノ停止ヲ命シタル時ハ命令ノ方法ヲ以テ之ヲ諸兵ニ周知セシメ又必要ナル時ハ掲示ノ方法ヲ以テ人民ニ周知セシム此ノ停止ハ之ヲ公示シタル後重罪又ハ輕罪ヲ犯シ其ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ就キテノミ其ノ効アル者トス而シテ死刑又ハ其ノ他加辱ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ裁判ニ付スルコトヲ命セシ士官ノ署名シタル命令書ヲ以スルニ非サレハ刑ノ執行ヲ受ケサル者トス

第二卷　覆審會議ノ權限

第七十二條　覆審會議ハ其ノ管轄内ニ設ケラレタル軍法會議ノ裁判ニ對スル上告ニ就キテ判決スル者トス

第七十三條　覆審会議ハ本案ノ審判ヲ為サス

第七十四條　覆審会議ハ左ノ場合ニ非サレハ裁判ヲ取消スコトヲ得ス

第一　軍法會議ヲ以テ法典ノ規則ニ循ヒテ構成セサリシ時

第二　權限ノ規則ヲ犯觸シタル時

第三　軍法會議カ其ノ存在スト裁判シタル事實ニ法律ニ記載シタル刑ヲ適用セサリシ時又ハ法律ニ記載シタル場合ノ外ニ刑ノ宣告ヲ爲シタル時

第四　無効ノ罰ヲ以テ命セラレタル手續ニ犯觸シ又ハ之ヲ遺忘シタル時

第五　軍法會議カ權利ノ使用ニ關スル被告人又ハ審事ノ請求ニ就キテ審判スルコトヲ遺忘シタル時

第三卷　糾察官ノ權限

第七十五條　糾察官ハ左ノ者ヲ裁判ス

第一　從軍糧係、從軍糧婦、從軍酒係、從軍酒婦、澣濯婦、商人、從僕及ヒ總ヘテ許可ヲ得テ軍ニ從フ者

第二　無宿ノ徒

第三　士官ニ非サル俘虜

糾察官ハ以上ノ者ニ就キ左ノ諸件ヲ其管轄内ニ於テ審判ス

第一　以法典第二百七十一条ニ記載シタル犯罪

第二　六月ノ禁錮及ヒ二百フランノ罰金ヲ超過セサル刑ニ該タル犯罪又ハ右ノ

中一個ニ該タル犯罪

第三　百五十フランヲ超過セサル賠償ノ請求ニシテ其権限内ノ犯罪ニ関シタル者

糾察官ノ判決ハ上訴ヲ許サス

第四卷　數人共犯ノ場合ニ於テノ権限

第七十六條　重罪、軽罪又ハ違警罪ノ公訴ニ陸海軍裁判所ノ裁判スヘカラサル者ト軍人又ハ他ノ陸海軍裁判所ニ於テ裁判スヘキ者トヲ含蓄スル時ハ其ノ被告人ヲ挙ケテ通常裁判所ニ召喚ス但次条及ヒ其ノ他法律ノ明文ヲ以テ取除ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條　左ノ場合ニ於テハ被告人ハ皆陸海軍裁判所ニ召喚セラル

第一　被告人皆軍人又ハ軍属ナル時、但其ノ中一人又ハ数人其ノ重罪又ハ軽罪ヲ犯シタル時ノ身分ニ因リ陸海軍裁判所ノ裁判スヘカラサル者タル時ト雖亦同シ

第二　軍法会議ニ於テ裁判スヘキ者ト外國人ト重軽罪ヲ犯シタル時

第三　外國出軍中ニ重軽罪ヲ犯シタル時

第四　佛蘭西領地内ニ於テ敵ト對軍中ニ重罪又ハ軽罪ヲ犯シタル時

第七十八條　陸軍裁判所ニ於テ裁判スヘキ者ト海軍裁判所ニ於テ裁判スヘキ者ト重罪又

ハ輕罪ヲ共犯シタル場合ニ於テ若シ軍艦其ノ他政府ノ舟舶内軍艦碇泊港内又ハ造兵廠其ノ他海軍ニ屬スル館舍ノ境内ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタルトキハ海軍裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

第七十九條　若シ前條ニ記載シタル場所ヲ除クノ外ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタルトキハ独リ陸軍裁判所ノ権限ニ屬ス其ノ合囲ノ軍管内ニ在ル艦港、造兵廠又ハ海軍ニ屬スル館舍ニ於テ罪ヲ犯シタル時モ亦同シ

第五卷　大審院上告

第八十條　如何ナル場合ニ於テモ左ノ人員ハ軍法會議又ハ覆審會議ノ裁判ニ對シテ大審院ヘ上告スルヿヲ得ス

一　軍人軍屬其他第五十五条第五十六条及ヒ第五十七条ニ記載セル者

二　其佐置ニ因リ陸軍ノ法律規則ニ服從スル者

三　第六十二条第六十三条第六十四条ニ定メタル場合ニ於テ軍法会議ノ審判ヲ受クヘキ者

四　合圍中ノ城塞内ニ在ル者

第八十一條　前條ニ掲載セル人員外ノ被告人又ハ刑人ハ軍法会議又ハ覆審会議ノ裁判ニ對シ大審院ヘ上告スルヿヲ得可シ但シ管轄違ノ事件ノミニ限リ上告スルヿヲ得モノト

又

覆審會議ヘ上告ヲ判決スル前又ハ次上告ヲ行フ可キ期限ノ終尽セサル前ニハ大審院ニ上告スルヿヲ得可カラス

第八十二條　治罪法第四百四十一條第四百四十二条第四百四十三条第四百四十四条第四百四十五条第四百四十六条第四百四十七条及ヒ第五百四十二条第一項ハ陸軍裁判所ノ裁判ニ適用ス可シ治罪法第五百二十七条モ亦タ之ヲ適用ス可シ

○佛國陸海軍裁判法一班

千八百五十九年以来各裁判區ニ軍法會議ヲ置ク又此裁判區ヲ多ク小區ニ別ツ各區ノ軍法會議ニ判士長（アボカト、ラヒスカル、ヒリテール）ヲ置キ其長トス判士長ハ法学得業生タルベシ且普國軍隊ノ審事ト同一ノ職務ヲモ掌リ若干ノ士官ヲシテ之ヲ補佐セシム

陸海軍裁判所ノ種類等級ハ即チ左ノ如シ

豫審委員（コミシヨン、ダンケート）（審問士官（オフヒシエエストリユクトル）取調ヲ了リタル後ニ於テ更ニ訊問ヲ為シ軍法會議ニ移スノ命令ヲ下スヲ掌ルモノトス）

各軍管ノ軍法會議

軍中ニ於テ置ク軍法會議

陸海軍高等軍法會議　王都ニ之ヲ置キ武官

ノ判士長一名及ビ八名ノ判士ヲ以テ之ヲ
組成ス（軍人三名、参事院議官三名、及ビ控訴
院局長又ハ判事二名）第三百四十三条ニ於
テ陸海軍高等軍法會議ノ管轄權限ヲ定ム
ルヿ左ノ如シ
陸海軍高等軍法會議ハ軍法会議ノ判決
ニ對シテ為ス所ノ取消し訴ヲ審判ス可
キモノトス
軍中ニ於テハ軍法会議ヲ常ニ置ク可シ
第三百二十三条ニ於テ軍法ヲ以テ論スベキ者ト
為ス所左ノ如シ
現役中ノ軍人
非役士官、老兵、其他諸軍属（逃セシタル者モ軍
軍法会議ニ於テ尚ホ之ヲ處断ス）
嘗テ服役中罪ヲ犯シ後ニ発覚シタル者
第四百三十六条ニ於テ被告人ニ判士ヲ忌避スル
コヲ許ス
第四百三十六条ニ曰ク弁護人ハ判士ヲ忌避
スルノ理由又ハ被告人ニ不利益ナル証人ニ
對シテ異議ノ申立ヲ為スベキ点ヲ被告人ニ
指示ス可シ

○軍法會議ノ裁判ニ對スル上訴

軍法會議ノ裁判ニ對シテ再審會議ニ上訴スルヿヲ得又或ル場合ニ於テハ大審院ニ上告スルヿヲ得ル

○第一章　再審會議（コンセイユド、レビジョン）

再審ノ上訴ハ原被告人ヨリモ檢事ノ職ヲ行フ大尉ヨリモ之レヲ為スヿヲ得ル被告人ハ裁判言渡ノ後二十四時間内ニ上訴ヲ為スヘク檢事ハ被告人ニ付与シタル時間ノ經過後二十時間内ニ之レヲ為スヘシ再審ノ上訴ハ再審會議ニ差出スモノトス

再審會議ハ各軍管及ヒ内地ニ使役セラルヽ各

隊ニ一箇ヲ置ク談會議ハ平時戰時ノ別ナク閑
設シ軍管司令官若クハ内地ニ使役セラルヽ各
隊ノ司令官ニ於テ任命スル左ノ五名ヲ以テ組
織スヽ曰ク將官一名（議長タリ）大佐一名大隊長一
名大尉二名又錄事ノ一名及理事（ラッポルター）一
名ハ議長ノ命トスル所ナリ而メ監督（エンタンダ
ン）副監督ノ内一名検事ノ職務ヲ行フ
再審會議ノ裁判ハ多數ノ決議ニ依テ為スモノ
トス
再審會議ハ左ニ掲クル五箇ノ場合ニ於テ軍法
會議ノ裁判ヲ取消スルヿヲ得（其一）軍法會議ノ
組織法律ニ從ハサリシヿ（其二）軍法會議被告人
ノ身分ニ付キ或ハ犯罪ノ性質ニ付キ管轄ヲ越
ヘタルヿ（其三）軍法會議ノ自ラ管轄違ナリト宣
告シタルヿ（其四）豫審又ハ公廷ニ於テ法律ノ定
ムル手續ヲ履行セサリシヿ（其五）軍法會議ノ裁
判刑ノ適用ヲ誤リタルヿ但再審會議ハ事實ノ
審問ヲ為スヿヲ得ス
再審會議ニ於テ管轄違ヒノ故ヲ以テ裁判ヲ取
消シタルヿハ更ニ管轄裁判所ニ事件ヲ送付ス
ベシ
其他ノ理由ニ依テ取消シタルヿハ各軍管ニ屬
スル二箇ノ軍法會議ノ他ノ方ヘ事件ヲ送付シ
テ更ニ訊問及ヒ豫審ヲ閑カシムヘシ第二ノ軍
法會議ノ裁判ニ對シテモ亦タ軍法會議ニ上訴
スルヿヲ得而メ第二ノ裁判ニ尚ホ瑕瑾アルヿ

ハ更ニ之レヲ取消シテ接近ノ軍管ノ第一軍法會議ニ事件ヲ送付スヘシ

○第二章　大審院上告

從前ハ軍法會議ノ裁判ニ對シテハ左ノ三箇ノ場合ノ外ハ上告ヲ許サストノヿニ決セリ（其一）軍人軍屬ニアラサルモノヨリ軍法會議ノ裁判ニ對シ管轄違ヒ或ハ越權ノ故ヲ以テ上告シタルトキ（其二）司法卿ノ特命ヲ以テ大審院ニ裁判ヲ送付セラレタルトキ（其三）軍事裁判所ト通常裁判所トノ間ニ管轄ノ爭ヲ生シタルトキニ依リ管轄ヲ定ムルトキ（千八百三十年二月四日及ヒ其他ノ大審院裁決參觀但附錄ニ訣述スヘシ）其後更ニ大審院ニ於テ檢事長ニ軍法會議ノ裁判ニ對シ上告スルノ權ヲ付与シタリ（千八百四十二年三月十一日裁決同前）故ニ軍人軍屬檢事ノ職ヲ行フ大尉等ハ決シテ大審院ニ上告スルヿヲ得ス又軍人ニアラサルモノモ管轄違及越權ノ為メニスルノ外ハ上告スルヿヲ得ス司法卿及ヒ大審院檢事長ハ他ノ事件ノ如ク總テ法律ニ背クノ故ヲ以テ上告スルノ權ヲ有ス司法卿ノ特命ニ依テ上告ヲ為シタルトキハ裁判破毀ノ効力独トリ法律上ノ利益ニ止ラスシテ被告人モ亦タ其利益ヲ享受スヘシ檢事長ノ上告ニ至テハ同一ノ結果ヲ生スル能ハス管轄上ノ規則アルニ依テ勢ヒ然ルヲ得サルナリ

最後ニ注意ス可キ一点ハ非軍人ヨリ管轄違若

ク ハ越権ノ故ヲ以テ上告スルニ別ニ一定ノ期限ナキ丁之レナリ

○軍法會議ノ裁判ニ對スル上告

○第一章　総論

軍人軍属ノ間ニハ平時ト雖ドモ極メテ嚴格ニ規律ノ行ハルヽヲ貴フ特ニ戰時ニ在テハ果斷迅速ノ處置ヲ以テ威服震慴セシメサルヘカラス然ルニ若シ確定裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルヲ得ト云ヘル普通法律ノ原則ヲ適用シテ軍人ニ上告ヲ為スヿヲ許セハ勢ヒ刑罰延滯シテ威令振ハサルニ至ルヘシ此故ニ佛國ニ於テハ從前軍人軍属ニ軍法會議ノ裁判ニ對シテ上告スル丁ヲ許シタレドモ第六年バンデメール月十八日ノ法ヲ以テ斷然之レヲ禁止シ同時ニ再審會議ヲ創始シタリ爾来該會議ハ軍人ノ為ニ

大審院ノ地位ヲ有シ軍法會議ノ裁判ニ對スル上訴ヲ審理スレハ即チ軍法會議ノ組織不規則ナリシヿ正当ノ手続ヲ履行セサリシヿ刑ノ適用ヲ誤リシヿニ付キ軍法會議ノ裁判ヲ取消ス可シ事実ノ審問ハ為スヿヲ得ス之レヲ組織スルニ士官ヲ以テシ且迅速ノ手續ニ依テ審理スル等ハ自ラ軍陣ノ制度ニ適当セリ

軍法會議ノ裁判ヲ受ク可キ者独トリ軍人軍属ニ止レハ更ニ論辯ヲ要セス然レトモ実際軍籍ニ属セサルモノヽ談會議ニ於テ處分ヲ受クルヿ屢〻之レアルニ依リ軍人ト非軍人トノ間ニ區別ヲ立ツルヿ亦肝要ナルヘシ即チ非軍人ニハ普通法律ノ原則ヲ適用シテ大審院ニ上告スルヿヲ得セシテ可ナリ故ニ佛國ニ於テハ第八年バントーズ月廿七日ノ法第七十七条ヲ以テ非軍人ニハ管轄違及越權ノ理由アルトキニ限リ上告ヲ許シ又千八百五十七年ノ新法ハ少シク其場合ヲ制限シタルトモ尚ホ管轄違ノ理由ニ依テ而已上告ヲ為スヿヲ許ス

凡ソ裁判ニ不正不当ノ事アルトキハ假令被告人ニ於テ上告ヲ為サヽルトモ司法卿或ハ大審院ノ検事長ヨリ法律ノ為ニ被告人ノ為ナラス上告ヲ為シテ狂ヲ直スルヿ法律監護者タルノ職分ニ對シテ必ス為サヽルヲ得サル所ナルヘシ之レ治罪法第四百四十一條第四百四十二條等ノ規則アル所以ニシテ普通法律ト軍律トヲ問ハ

ス一様ノ規則ヲ適用センヿ要用ナリ

〇第二章　現行法

千八百五十七年六月九日軍律第八十条ノ掲載スル軍人軍属及ヒ其他ノ人種ハ大審院ニ上告スルヿヲ得ス軍法會議ノ組織不規則ナリ又ハ刑ノ適用ヲ誤リタリ又ハ正当ノ手続ヲ履行セスト思考スルキハ再審會議ニ上訴スルヿヲ得ルノミ

軍法會議ノ裁判ニ對シテ上告ヲ為シ得ルヿハ左ニ掲クル場合ニ止ルヘシ

〇其一

軍人軍属ニ非ラサル者及ヒ第八十条ニ含畜セサル者ハ軍法會議及ヒ再審會議ノ裁判ニ對シテ上告スルヿヲ得但管轄違ノ理由ニ依テ而已上告スルヿヲ得ルナリ（第八年バンドース月廿七日ノ法第七十七條ニハ管轄違及越権ノ理由ニ依リトアリタレヒ新律ハ其一ヲ削除シタリ）管轄違トハ被告人ノ身分或ハ犯罪ノ性質ニ依テ裁判ス可カラサルヿヲ云フ（付録参觀）大審院ニ上告スル権ヲ有スル非軍人ハ軍法會議ノ裁判ニ對シテ先ツ再審會議ニ上訴スルモ可ナリ又ハ再審會議ニ上訴ス可キ期限ノ経過スルヲ俟チテ其後直チニ大審院ニ上告スルモ可ナリ但一旦再審會議ニ上訴シタル上ハ半途ニシテ上告ヲ為スヿヲ得ス先ツ同會議ノ裁判ヲ受ケテ猶不服ナレハ更ニ大審院ニ上告ス可

シ

○其二

司法卿及大審院検事長ハ法律ノ誤用ヲ匡正スル為メニ被告人ノ上告ヲ為シ得サルヿ及ヒ被告人ノ上告ヲ為サヽルヿニ於テモ軍法裁判所ノ裁判ニ對シ大審院ニ上告スルヿヲ得千八百五十七年ノ法第八十二条治罪法第四百四十一条第四百四十二条参観

又治罪法第四百四十三条、四条、五条、六条等ニ掲クル再審ノ訴ドマンドアンレビジョンヲ許可スヘキ理由ノ存スルヿ及ヒ公安又ハ嫌疑ノ為メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ起スヘキ理由アルヿハ司法卿ヨリ職権ヲ以テ或ハ被告人ノ訴ニ依テ大審院検事長ニ特命ヲ下シ検事長ヨリ軍法會議ノ裁判ニ對シテ上告ヲ為ス可シ

○其三

治罪法第五百廿七条ニ掲クル裁判管轄ヲ定ムルノ訴ハ軍法會議ト普通裁判所ノ間ニ管轄ノ爭アルヿニ於テモ大審院ニ於テ裁判スヘシ

軍法會議ノ裁判ニ對スル上告付録

○佛國大審院判決（千八百五十七年五月九日）

（千八百五十七年六月九日ノ新法第八十一条ニ依レハ管轄違ノ外ハ上告ヲ許サヽルヿトナレリ本判決ハ第八年パントレス月ノ旧法管轄及ヒ越権ノ二箇ノ場合ニ上告ヲ許シタルトキニ為セシモノナリ讀者之レヲ諒シ主トシテ管轄違ノ点ヲ參考スヘシ）

第八年ハントーズ月廿七日ノ法第七十七条ニ依ルニ軍法會議ノ裁判ニ對シ軍人軍屬ニ非サル者ヨリハ大審院ニ上告スルヿヲ得レ

ル管轄違及ヒ越権ノ理由ヲ以テスルキニ限ル可シ

管轄違トハ被告人ノ身分或ハ犯罪ノ性質ニ依テ軍法會議ノ裁判ス可キ限ニアラサルヿヲ云フ會議ノ組織不規則ナルハ管轄違ニアラス

越権トハ軍法會議カ他ノ官衙或ハ裁判所ノ権限ヲ侵シ或ハ他ノ官衙ノ職務ヲ妨害スル所為ヲ云フ軍法會議ニ於テ問答ノ混亂シタルヿ若クハ刑ノ適用ヲ誤リタルヿハ権越ノ限ニアラス

○判決

大審院ハ○普通鞍工「アルチーグ」ノ上告ニ関シ

○第八年バントーズ月廿七日ノ法第七十七條ニ依ルニ軍法會議ノ裁判ニ對シ軍人軍属ニ非サル者ヨリ管轄違及ヒ越権ノ理由ヲ以テスルキニ限リ上告ヲ為スヲ得ルニ因リ○上告人ニ於テ管轄違ノ理由ト為ス所ハ海軍裁判所ノ組織カ法律ニ反スト云ニアリ即チ船長ヲ以テ裁判長ニ任シ將官差支ノ理由ヲ裁判ニ掲ケサル八千八百六年十一月十二日ノ布告第三条ニ反スト云フニアルニ因リ○然ルニ第八年バントーズ月ノ法第七十七条ニ所謂管轄違トハ被告人ノ身分及ヒ犯罪ノ性質ニ依テ裁判ス可カラサルヲ云ニアリ裁判所ノ組織ノ不規則ナルカ如キハ畢竟法律ニ反スト云ニ過キズシテ之レ

ヲ批難スル為メノ上訴ハ再審會議ニ差出ス可キモノトス元来軍事裁判所ノ裁判カ其組織訴訟法等ヲ定ムル法律ニ反スルヤ否ヲ審理スルハ再審會議ノ職務ナルニ因リ

「アルチーグ」ハ他ノ三名ノ犯罪人カ「ツーロン」ノ武器製造所ニ於テ窃取シタル贓品ヲ隠匿シタルヲ以テ「ツーロン」海軍裁判所ニ召喚セラレタルニ因リ○然ルニ千八百六年十一月十二日ノ布告第十条第十一条ニ依ルニ軍用ニ供スル海港製造所ニ於テ犯セル罪ハ海軍裁判所ノ管轄ト定マレルニ因リ上告人ニ於テ越権ノ理由ト為ス所ハ刑ノ適用ヲ誤リタリ即チ「アルチーグ」ニ言渡サレタル有期徒刑ノ刑ハ「アル場所ニ於テ窃取シタル」ノ明瞭ナルニアラサレハ不当ナリトス然ルニ原裁判ニハ三名ノ番卒カ何ヽ品ヲ製造所ニテ窃取シタリトアリ製造所ニアメノ有無ヲ詳ニセスト云ニアルニ因リ○然ルニ第八年バンドース月ノ法第七十七条ニ掲クル越権トハ軍事裁判所カ他ノ立法行政司法ノ官衙ノ職権ヲ侵シ若クハ他ノ官衙ノ職務ヲ妨害スルノ所為ヲ云フニ因リ○軍事裁判所ニ於テ為シタル問答ノ混乱及ヒ刑ノ適用ノ誤等ハ再審會議ニ上訴ス可キ法律ノ背反ニ過キサルニ因リ○上告ヲ却下ス

○千八百三十七年七月二十二日ノ大審院

判決

要領

軍法會議審事ハ再審會議ニ於テ下シタル管轄違言渡ニ對シテ大審院ニ破毀ヲ求ムルノ權ナキ者トス

本院ハ左ノ理由ニ因リ大審院ナル者ハ陸海軍裁判所ニ於テ下シタル判決ヲ匡正スル可キ普通ノ裁判所ニアラズシテ獨リ左ノ三個ノ場合ニ限リ特別ニ陸海軍裁判所ニ於テ下シタル判決ヲ審按スルヿヲ得

一、軍人軍屬ニ非サル者共和八年「ハントウス」月二十七日ノ法律第七十七条ニ背キ管轄違ヒノ陸海軍裁判所ニ召喚セラレ管轄違ノ訴ヲ大審院ニ為シタル時

二、治罪法第四百四十一條及ヒ共和八年ノ法律第八十條ノ規則ニ由リ司法卿ノ命令ヲ受ケテ大審院ノ檢事長告発ヲ為タル時

三、治罪法第五百二十七條ニ定ムル如ク陸海軍裁判所ト司法裁判所トノ間ニ權限爭起リ為メニ裁判ヲ中止スル時

第十三軍管ノ常置軍法會議ノ審事ハ音樂師「レスパギヨウル」ニ對シテ為シタル管轄違ノ裁判言渡ニ就キ本年四月二十日ヲ以テ再審ノ訴ヲ起シ法律附与スル所ノ權ノアラン限

リ尽シ了リタリ故ニ同軍管常置ノ再審會議ニ於テ審事ノ訴ニヨリ同月廿六日ヲ以テ下シタル裁判ニ對シテ更ニ他ノ裁判所ニ其匡正ヲ求ムルノ権ナキモノトス

若シ假ニ上訴者ノ言フ如ク此第二ノ上等ノ裁判所ニ於テ下シタル裁判ニシテ尚ホ管轄違ナリトスルモ此上等ノ裁判所ニ於テ検察官ノ職務ヲ行フ者ニ非レハ該裁判ニ對シテ取消ノ訴ヲ起ス能ハサル而シテ斯ノ如ク訴ヲ起スニハ陸軍卿ニ告発スルニ非レハ能ス

且大審院ハ治罪法第四百四十一條ノ式(司法卿ノ令ヲ受ケテ検事長訴ヲ起ス)ヲ履ニ非レハ大審院ハ訴ヲ受理スルヿヲ得サルモノトス

本裁判言渡ニ関シテ政府ヨリ一モ命令ヲ本院検事長ニ下シタルヿナキヲ以テ検事長ハ起訴シタルヿナキナリ

裁判ヲ中止スベキ権限争本院ニ於テ起リシヿナク又非軍人ノ訴モ未タアラサルナリ

依テ審事ノ上告ハ棄却ス可キ者ト宣告ス

千八百三十七年七月二十二日

刑事局

裁判長　バスタール

専任判事　イサンベール

大代言士　ヘロー

恩給

何レノ國ニ於テモ官吏ノ為ニ恩給例ヲ設ク然レモ各國ノ條例ニ多少ノ差異アリ

佛蘭西

重要ナル條例ハ千八百五十三年六月九日ノ法ニアリ該法ハ官吏傭員支配人等総テ政府ノ給料ヲ受クルモノニ適用スヘシ恩給ヲ受クルハ左ノ場合ニ限ルヘシ

第一　恒務（セルビース・セダンテール）ニ任シタル官吏ハ年齢六十歳ニ至リ満三十年間公務ヲ行ヒタルトキ○動務（セルビース・アクティフ）ニ任シタル官吏五十五歳ニ至リ二十五年間公務ヲ行ヒタルトキ○此場合ニ於テ得ヘキ恩給ハ最後六年間ノ俸給ノ平均額ノ半トシ且三

十年以上奉職ノ年コトニ六十分ノ一（卑務）若クハ五十分ノ一（動務）ヲ増加ス

第二　年齢及ヒ奉職年限ニ係ハラス左ノ事項ニ依テ職務ヲ継續スル能ハサルキ

其一　公務ニ尽カスル所為ニ依リ

其二　人民ノ生命ヲ救フ為メ自己ノ身體ノ危難ヲ顧ミサルニ依リ

其三　其職務ヲ行フニ於テ已ムヲ得スシテ爭鬪シタルニ依リ

其四　職務ヲ行フヨリ生シタルニ相違ナキ重傷ノ為ニテ

此場合ニ於テハ最後ノ俸給ノ半額ニ均シキ恩給ヲ受クヘシ

第三　卑務ニ於テ五十歳ノ年齢ニ至リ二十年間公務ヲ行フモノ又動務ニ於テ四十五歳ニ至リ十五年間公務ヲ行フモノ左ノ二箇ノ場合ニ於テ恩給ヲ受クヘシ

其一　職務ヲ行フヨリ生シタル大病ノ為ニ其職務ヲ継續スル能ハサルキ

其二　其官職ノ廃棄トナリタルキ

此場合ニ於テ与フヘキ恩給ハ官吏ノ卑務ニ属スルモノタルキハ在勤中ノ各歳毎ニ最後ノ俸給ノ六十分一ニ算定シ又動務ニ属スルモノタルキハ在勤中ノ各歳毎ニ最後ノ俸給ノ五十分一ニ算定スヘシ

寡婦及ヒ孤子ニ對シテハ區別ヲナスヿヲ要ス

夫ノ死去シタルキ已ニ六十歳ノ年齢ニ至リテ
満三十年間公務ヲ奉シ且難船或ハ特別ニ三十
年未満ニ恩給ヲ受クヘキ事項ニ依テ死去シタ
ルキハ假令ヒ夫ノ生存中ニ未タ恩給ヲ受ケ居
ラサルモ寡婦ハ恩給ヲ受クルノ権アリトス
之レニ反シ夫ノ年齢六十歳未満奉職三十年以
下ニテ死去シタルキハ夫ノ生存中特別ニ恩給
ヲ受タルキノ外寡婦ハ之レヲ受クルノ権ナシ
寡婦ノ恩給ハ夫ノ恩給ノ三分一トス然レ𪜈特
別ノ場合ニ於テ三分二ヲ給スル〕アリ又タ通
常ハ死去以前ニ五年間結婚シタルモノニアラ
サレハ給与セサレ𪜈特別ノ場合ニ於テハ然ル
ヲ要セス

寡婦死去スルキハソノ恩給ヲ孤子ニ付与シ二
十一歳未満ノモノニ分配スヘシ
五十三年ノ法ヲ適用スヘキ揔テノ官吏ハ俸給
ノ百分ノ五ノ扣除ヲ受クヘシ
左ニ掲クルモノニハ五十二年ノ法ヲ適用セス
其一　卿、輔、参事院議官、刈長、郡長
此等ノ官員ハ俸給ノ扣除ヲ受ケス恩
給ハ最後四年間ノ平均俸給ノ六分一
ナリ恩給ヲ受クル為ニ三十年間ノ奉
職ヲ〕ナス〕ヲ要シ三十年以上ハ増加
アリ
其二　卿其他高貴ノ官員及ヒソノ寡婦孤子
又ハ功労アル陸海軍大将ノ寡婦孤子

ハ皇帝ヨリ二万フランノ特別恩給ヲ受クル丁ヲ得但此等ノ恩給二十五ヲ供セ受クル丁ヲ得ス

其三　千八百五十二年三月一日ノ布達ヲ以テ定ムル年齢ニ達シタル司法官ハ二十年間奉職ノ後恩給ヲ受クルノ権アリ

司法官恩給

上等裁判所民事裁判所治安裁判所ノ定額中欠員判事ノ俸給及ヒ千八百六年九月十八日ノ布達ヲ以テ定メタル司法省官吏及ヒ傭員ノ俸給ノ扣除ヲ以テ官吏其寡婦及孤子ノ恩給ニ充ツ諸裁判所ノ判事ハ満三十年間ソノ内少クモ十年間ハ司法部内ニ於テ奉職ノ後チニアラサレハ恩給ヲ受クルノ権ナシトス然レモ疾病若クハ憂災ニ依テ其職ヲ継クノ能カヲ失フタルモノ及ヒ其職務ノ廃止セラレタルニ依テ止ムモノハ少クモ十年間裁判所ニ奉職シタルモノニ限リ定期ノ以前ニ恩給ヲ受クル丁ヲ得ヘシ

立法司法若クハ行政ノ事務ニ従事シタル年限ヲ奉職年限ニ計算スヘシ

満三十年奉職ノ後チニハ俸給ノ半額ニ均シキ右ノ場合ニ於テ寡婦ノ恩給ハ夫ノ受クヘキモノヽ三分一トス但百フランヨリ少カルヘカラス

三十年未満十年以上司法部内ニ奉職中ニ死去

シタル官吏ノ寡婦ハ扣除積金ノ中ヨリソノ必要ナルヿヲ証明シテ恩給ヲ受クルヿヲ得ヘシ

〇三十年未満ノ恩給ヲ受ケテ退職中ニ死去シタル官吏ノ寡婦亦タ同一ノ権アリ〇恩給ヲ必要トスルハ夫ノ死去シタルヽ寡婦ノ所得夫ノ恩給ノ三分二ヨリ少キヽナリトス但所得ヲ証明スルニハ千八百二十二年十月二十二日ノ布達ヲ以テ定ムル方法ヲ用ユヘシ

夫ノ職務ヲ止ムル日ヨリ少クモ五年以前ニ結婚シタル寡婦ニアラサレハ恩給ヲ与ヘス又夫ノ請求ニ依テ別居スル寡婦ニハ之レヲ与ヘス

再婚スルヽヿハ儀式挙行ノ日ヨリ恩給ヲ失フヘシ

孤子ハ満十八年ニ至ルマテ恩給ヲ受ケクルノミ但不治ノ疾病ニ罹ルヽヿハ其以上ニ及フヿヲ得政府ヨリ支給スル場所ニ於テ養育ヲ受クルモノニハ恩給ヲ与ヘス

孤子ニ給スヘキ恩給ハ名々ニ父ノ受クヘキ恩給ノ二十分ノ一トス但五十フランヨリ少カルヘカラス

免職ヲ命セラレタル官吏ハ恩給ヲ受クルノ権ヲ失フヘシ

辞職スルモノ亦同シ

法律ヲ以テ定ムルヽヿノ外已ニ司法省ノ積金中ヨリ恩給ヲ受クルモノハ重ネテ他ノ恩給ヲ受クルヿヲ得ス

恩給ヲ与ヘ三十年以上奉職ノモノニハソノ年コトニ右半額ノ二十分ノ一ヲ増加スル割合ニテ給与スヘシ

特別ニ十年ノ後ニ給与スヘキ恩給ハ最初ノ十年ニ對シテ三十年ノ後ニ給与スヘキ恩給ノ三分一ヲ与ヘ十年以上ノ年コトニ三十分ノ一ヲ増加スヘシ

総テ恩給ノ金額ハ最後ノ三年間ニ得タル俸給ノ平均高ヲ取テソノ幾分ト計算スヘキモノナリ

但俸給ノ三分二ヲ越ユヘカラス又俸給ノ如何ニ係ハラス六千フランヨリ多カルヘカラス二百フランヨリ少カルヘカラス

司法官ノ寡婦ハ左ノ場合ニ於テ司法省ノ扣除積金ノ内ヨリ恩給ヲ受ヘシ

第一　夫ノ死去シタルキ已ニ三十年間ノ奉職ヲナシタリ但恩給ノ已ニ結算セラレタルト否トニ関セス

第二　夫ノ死去シタルキ三十年未満ニ得ヘキ恩給ニシテ千八百二十四年八月二十七日ノ布達以後ニ結算セラレタルモノヲ受ケ居タリ

文官ノ恩給ニ関スル千八百五十三年六月九日ノ法律執行ノ行政上ノ條例ヲ記載シタル千八百五十三年十一月九日ノ布告

第三十條　千八百五十三年六月九日ノ法律第五條ニ於テ命令シタル年齢ニ達セサル以前退隠願ヲ為シタル時ハ左ノ手續ニ循ヒテ之ヲ允許ス

若シ本人カ事務ヲ取扱フコトヲ得サル所以ノ者無形ノ事ニ関シ之ヲ審覈スルニ由ナキトキハ本人ヨリ上級ノ者報告書ヲ以テ之ヲ証明ス

之ニ反シテ有形ノ事ニ関スルトキハ上文ニ掲ケタル証拠ノ外本人ヲ療治シタル医師ノ

証書及ヒ官廳ヨリ指定シ且宣誓シタル医師カ本人ノ事務取扱ニ耐ヘサルコトヲ明言シタル証書ヲ憑拠トシテ以テ其ノ退隠ヲ允許スヘシ

第三十一條　退隠ヲ許サレタル者ハ其ノ生産証眉及ヒ住所届ノ外左ノ眉類ヲ指出スヘシ

第一　文官ノ証明ニ就キテハ

奉職官廳ノ履歴簿ノ抄本、但其ノ抄本ハ法式ニ循ヒテ証明セラルヽコトヲ要ス且其ノ抄本ニハ氏名、身分、生産ノ日附及ヒ場所、始メテ俸給アル職ニ就キタル日附、階級職務ノ昇進轉替シタル次第、職ヲ罷メタル日附及ヒ理由毎職最後ノ六年間ニ受ケタル俸給ノ総額ヲ記載ス

若シ履歴簿アラサルトキ又ハ履歴簿アリト雖其ノ奉シタル職務ヲ記載セサルコトアルトキハ其ノ奉職シタル官廳ノ管轄長官カ作リタル証眉ニ上ニ挙ケタル諸件ヲ記載セシメテ之ニ代ヘ又ハ會計検査院ノ計算眉ニ同院書記ヲシテ証明ヲ為サシメテ之ニ代フヘシ

歐羅巴洲外ニ於テ奉シタル職務ハ管轄省卿ノ作リタル証眉ヲ以テ証明ス而シテ其ノ証書ニハ各職毎ニ其ノ通常ノ俸給額及ヒ殖民地ノ俸給タルノ名目ヲ以テ増シタル額ヲ記載スヘシ

此レ等ノ諸証書ナキトキ及ヒ古書類保存所ノ毀壊又ハ上級官吏ノ死去ニ依リ其ノ諸証書ヲ作リコト能ハサルコトヲ証明シタルトキハ公証人ノ証書ヲ以テ其ノ奉シタル職務ヲ証明スルコトヲ得

第二　陸海軍武官ノ証明ニ就キテハ

此ノ項ハ陸海軍武官ノミニ係ルヲ以テ之ヲ略ス

州廳又ハ郡廳ノ諸職務ハ州長又ハ郡長カ作リタル証書ヲ以テ証明ス而シテ其ノ証書ハ内務卿之ヲ検閲スルコトヲ要ス

第三十二條　恩給ヲ得ント欲スル寡婦ハ其夫ノ差出ス可キ書類ノ外ニ左ノ書類ヲ差出スヘシ

第一　寡婦ノ出生証書

第二　夫ノ死亡証

第三　婚姻公式ノ証

第四　分居又ハ離婚ナキノ証明書

第五　分居ノ場合ニ於テハ其分居ハ寡婦ノ願ニ依テ言渡サレタルヿヲ証明ス可シ

恩給ヲ得ント欲スル孤児ハ其父ノ差出ス可キ書類ノ外ニ左ノ書類ヲ差出ス可シ

第一　自己ノ出生証書

第二　父ノ死亡証

第三　父母ノ婚姻公式ノ証書

第四　後見証ノ寫又ハ抜抄

第五　母先ツ死シタル時ハ其死亡証

父母分居ノ場合ニ於テハ其裁判言渡ノ寫書又ハ其裁判ヲナシタル裁判所書記ノ証明書ヲ差出スヘシ

再婚ノ場合ニ於テハ其公式ノ証ヲ差出スヘシ

恩給ヲ得ントスル寡婦又ハ孤児ハ其父又ハ母ノ恩給ヲ得テ死シタル時ハ渡シ置キタル恩給状又ハ恩給状ノ紛失ヲ証明シタル証書ヲ差出ス可シ

第三十三條　會計官ニ係ル特別ノ條例ナルヲ以テ畧ス

第三十四條　恩給ヲ受ケテ死シタル官吏ノ孤児ハ其父ノ退隠前ニ結ンタル婚姻ニヨリテ生シタル者ニアラサレハ当然得ルモノトシテ救助ヲ受クル丁ヲ得ス

第三十五條　千八百五十三年六月九日第一條第一節第二節及ヒ第十四條第一節第二節ニ掲ケタル場合ニ於テ恩給ノ権利ヲ閑始シタル事実ハ其場其時ニ調書ヲ作リ之ヲ証明スヘシ若シ此調書ナキ時ハ事実ヲ見聞シタル証人又ハ其事実ヲ知リ其成リ行ヲ判定スル丁ヲ得ヘキ人ノ陳述ヲ聽キテ作リタル書類

ヲ以テ之ヲ証明スルヿヲ得ヘシ此証明書ニハ其地方廳及ヒ官吏ノ長官ノ検証書ヲ加添スヘシ

六月九日ノ法律第十一條第三節ニ掲ケタル癈疾ノ場合ニ於テハ其癈疾及ヒ其原因ハ病者ヲ治療シタル医士及ヒ行政官ノ指示シタル醫士ヨリ宣誓ノ后チ之ヲ証明スヘシ此証明書ニハ前項ト同一ノ検証書ヲ加添スヘシ

恩給

日耳曼

日耳曼ニ於テハ官吏本官ノ者ハ其官ニ属セル定額ノ俸給ヲ終身間享有スルノ権アリ政府ハ何時ニテモ職務ヲ剥奪シ之ヲ停止シ又ハ退隠セシムルヲ得又タ其官職ニ附属セル所得及ヒ本官ノ職務中ニ執行シタル特別勤務ノ給料ヲ止メルヲ得然ヒ其俸給ハ之ヲ剥奪スルヿヲ得可カラス官吏ハ老年ニ達シ又ハ癈疾ニ罹リタルヒハ恩給ノ名義ヲ以テ此俸給ヲ願フヲ得可シ此権利ハ本人一代ニ止マリ其寡婦其子ニ移轉セス

以上ニ記シタルモノハ学士及ヒ裁判所ノ採用

シタル元則ニシテ諸聯邦ノ律法ニ之ヲ適用セリ故ニ以下墺地利普魯士ハビエルウェルタンベルノ律法ヲ述ヘ其他ノ聯邦聯合諸國律法ヲ一ニセサル所アリト雖モ官吏ノミ恩給ノ権ヲ有ス可シト云フニ至リテハ全國ノ律法皆ナ一ナリ故ニ左ニ記スル者ハ恩給ノ権ヲ有セス

一官職ヲ帶ヒス一時國家ノ事務ヲ執リタル者

二官吏ノ命令ヲ受ケ有形ノ職務ヲ以テ此官吏ヲ輔助スルノ任アル者寫生給使使部其他ニ之ニ類似セル者

官吏私有資産ノ如何ハ恩給ノ権利ニ関係ナシ退隱ノ恩給ハ報酬ノ一種ニシテ救助ニアラスト云フノ點モ亦タ全國ノ律法皆ナ一ナリ聯邦中數國ノ律法ニ於テハ官吏ノ恩給ノ権ヲ得ル者ハ其官吏ノ數年間職務ヲ執リタルヿヲ必要ナリトス墺地利ニ於テハ十年以上普魯士ニ於テハ十五年以上ウェルタンベルニ於テハ九年以上ト定ム○此年數ニ滿タスシテ退隱シタル者ハ墺地利ニテハ現職俸給ノ一ケ年分ヲ給ヲシ普魯士ニテハ勤労アリ且ツ財産ナキ者ニハ國王ヨリ現職ノ俸給ニ割合ヒ恩給ヲ賜フヿヲ得ルナリバヒエルニ於テハ官吏ヲ仮官定官ノ二類ニ分ツ行政部ノ官吏ハ先ツ仮官ニ任セラレ三ケ年目ノ始メニ定官トナル裁判官ハ任官スルヤ直チニ定官トナリ初年ヨリ恩給ノ権

ヲ有ス行政官ノ恩給ハ任官ヨリ第四年目ニアラサレハ閑始セス

退隠ノ原因ハ多ク左ノ場合ニ在リ

一行政組織ノ改正ニ依リ不用ノ官職ヲ廃止シタル時

二疾病年齢又ハ憂災ニ依リテ職務ヲ執ル能ハサル時

廃官廃廳ノ場合ニ於テハ非職トナシ又ハ俸給半額ニ当ル待命給ヲ賜フバヒエル等ノ諸ノ聯邦ニ於テハ待命給ヲ実行セス廃官廃廳ノ官吏ハ其長官ノ願ニ因リ従来ノ官ヨリ低クカサル新官ニ任セラル可シトス

未タ老年ニ達セス又ハ廃疾ノ推測ヲ惹キ起スヘキ職務年限ニ達セサル前ニ退隠ヲ願ヒ出テタル官吏ハ其職務ニ堪ヘサルノ証ヲ出ス可シ若シ其職務ニ堪サルノ事故ハ一時ノ事ナリト見ルヤハ仮リノ退隠ヲ許シ快復ノ後チ実務ニ服セシム

恩給料ノ高ハ何レノ律法ニテモ現職ノ俸給ノ高ニ應シテ之ヲ定ム

墺地士ノ官吏

一十年以上二十五年以下奉職ノ者ハ俸給三分ノ一

二二十五年以上四十年以下奉職ノ者ハ俸給ノ半額

三四十二年以上奉職ノ者ハ俸給三分ノ二

普魯士ノ官吏

一十五年以上奉職ノ者ハ俸給ハ分ノ二
二二十年以上奉職ノ者ハ同ハ分ノ三
三以後五年毎ニ入額十分ノ一ヲ加フ但シ俸給ノ半額ヲ過スルヲ得ス

○バビエルニ於テハ官吏ノ俸給ヲ分テ二種トス第一ハ官位ノ俸給第二ハ官職ノ俸給ナリ退隠後ニ賜フモノハ官位ノ俸給ナリ○別段ノ規則ナキ時ハ恩給ヲ左ノ如ク區別ス

恩給ヲ計算スルニ只タ俸給ノミアリテ附属ノ利益ナキ時ハ十年以内奉職ノ者ニ付テハ俸給ノ十分七十年以上二十年以下ノ者ニ付テハ其十分ノ八二十年以上三十年以下ノ者ニ付テハ其十分ノ九ヲ官位ノ俸給トス○若シ外ニ附属ノ所得アル時ハ奉職十年ノ者ニハ其十分ノ八十一年以上三十年以下ノ奉職ノ者ニハ其十分ノ九ヲ賜フ餘ハ官職ニ属スル俸給トナス

○凡ソ恩給ノ高ハ行政長官之ヲ定ム墺地利ニ於テハ此長官ノ決議ニ對シテ上訴シ又ハ裁判所ニ訴ヘ恩給ノ権ヲ得ントヲ要ムルヿヲ得ス然ルニバビエル及ヒウェルタンベルノ法律ハ此権利ヲ附與ス

○理論上ニ於テハ恩給ハ受給者ノ寡婦ニ及ハスト雖モ法律ヲ以テ夫ノ恩給ノ一部ヲ寡婦ニ附与スルモノアリバビエルノ法ハ獨リ仮官職ニ在リテ未タ自カラ恩給ヲ享有セスシテ死シ

タル官吏ノ寡婦ニ恩給ヲ与フ然ルニ寡婦ノ此権利ヲ有スルニハ在職中ニ結婚シ夫ヨリ婚姻ノ届ヲ長官ニ届ケ長官ノ之ニ故障ヲ述ベサリシヿヲ必要ナリトス寡婦若シ死亡スルカ又ハ再婚シタルキハ恩給ヲ子ノ十八歳（ウェルタンベル）ニ於テ二十歳（バヒエルニ於テ）迄賜給ス

○寡婦ノ恩給高（バヒエルニ於テハ月俸ノ五分一若シ夫退隠ノ後チ死シタル時ハ其恩給ノ五分一○ウェルタンベルニ於テハ夫ノ恩給高ノ内始メノ一千「グルデン」ニ付テハ其四分一其次キノ五百「グルデン」ニ付テハ其五分一其餘ノ高ニ付テハ十分一ヲ給与ス故ニ夫ノ恩給二千五百「グルデン」ナルキハ其寡婦ニ賜フ所左ノ如シ

第一　二千五百「グルデン」ノ内一千「グルデン」ノ四分一即チ二百五十「グルデン」

第二　次キノ五百「グルデン」ノ五分一即チ百「グルデン」

第三　餘分ノ一千「グルデン」ノ十分一即チ百「グルデン」

合計四百五十「グルデン」ナリ

墺國ノ法律ニ於テハ種々ノ場合ヲ定ムト雖モ要スルニ寡婦ニ与ヘルニ其夫ノ恩給三分一ヲ以テス孤児モ亦タ別段ノ権利ヲ有ス

普國ニ於テハ寡婦及ヒ孤児ニ給與スヘキ恩給ナシクレデリック二世ヨリ以来寡婦救助局ノ設ケアリ該局ハ生命保険ノ一種ニシテ二百五

十「ターレル」(大抵千「フラン」ニ当ル)以上ノ俸給ヲ受ケル官吏ハ其寡婦又ハ孤児ニ自己ノ恩給五分一ニ当ル入額ヲ与ヘルノ割合ニシテ入金スルノ義務アリトス

英吉利

十年以上常置ノ公務官トナリ日給月給又ハ年給ヲ受ケタル者ニシテ議院ノ決議ト抵觸セサルトキハ俸給六十分ノ十ニ當ル退隠料ヲ受ク可シ十一年以上奉職シタル者ニハ四十年ニ至ル迄一年毎ニ六十分ノ一ヲ加フ故ニ何人ト雖モ俸給三分ノ二以上ノ恩給ヲ得ヘカラス

在職十年ニ達セサル者職務執行中廢疾ニ罹リタル時ハ在勤毎二年ニ三ヶ月ノ俸給ヲ算当シタル賜金又ハ俸給ノ六分一ニ當ル恩給ヲ附与スルヿヲ得可シ

廢官廢廳ノ場合ニ於テ賜金又ハ恩給ノ額ハ事実ニ從テ之ヲ定ムル可シ然モ其額ハ俸給ノ三分二ヲ超過スルヲ得ス

恩給ニ普通ノ定額アリト雖モ非常ノ勤務アリタル場合ニ於テハ之ヲ増加スルヲ得可シ然モ若シ官吏名誉ヲ欠クヿアルトキハ給額ヲ減スルヿヲ得可シ減給ノ議決ハ議院ニ具申ス可シ

凡テ官吏六十歳以下ニ非サレハ恩給ノ推ヲ得ヘカラス但シ適正ニ証明シタル廢疾ノ場合ハ此限ニ在ラス○若シ不時ノ疾病ニテ退隠スルトキハ全快ノ上再ヒ本職ニ復スルヲ得ヘシ

白耳義

総テ政府ノ官吏ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケ在職三十年以上年齢六十五歳以上ノ者ニハ恩給ヲ許スヿヲ得可シ

又タ癈疾ニ因リ職務ヲ継続スルヿヲ得サル総テノ官吏ハ其年齢ノ如何ヲ論セス奉職十年以上ナレハ恩給ヲ許スヿヲ得可シ若シ職務ノ執行ニヨリ此癈疾ヲ生シタルトキハ奉職五年以上ノ者ニ之ヲ許スヲ得可シ負傷又ハ憂災ノ場合ニ於テハ年齢及ヒ奉職ノ年月ヲ問ハス

普通ノ恩給ハ最後ノ五年間ノ俸給ヲ平均シ其六十五分ノ一ト定ム憂災又ハ負傷ノ場合ニ於テハ最終ノ俸給ノ四分一ト別ニ五年前ノ奉職ノ毎年ニ六十分ノ一ヲ算当シタル高トヲ併セ給与ス○如何ナル恩給ト雖モ算定ノ基礎トシタル俸給ノ三分二ヲ超過スルヲ得ス又タ五千法以上タルヲ得ス

寡婦孤児ノ恩給ハ別ニ救助局ノ設アリテ之ヲ給與ス其救助局ハ官吏ノ俸給中ヨリ國庫ノ為メニ百分一ヲ扣除シ之ヲ積ミ立テ置クノ所トス

和蘭

和蘭ニ於テハ文官ノ恩給ハ千八百四十六年五月九日及ヒ千八百五十一年五月三日ノ法律ヲ以テ規定ス

文官ハ引キ続キテ四十年間國家ニ奉職シ年齢

六十五歳以上ニ達シタル者ハ恩給ノ権ヲ有ス
其恩給ノ高ハ俸給ノ三分二ヲ最多数トス奉職
時間ノ各年ニ六十分ノ一ヲ算当ス
此規則ニ例外ヲ設ク
職務ノ執行ニ因リ負傷又ハ癈疾ニ罹リ職務ニ
堪ヘサル者ハ奉職ノ歳月ヲ問ハス恩給ヲ受ク
ヘシ○他ノ原因ニ依リテ職務ニ堪ヘサルキハ
十年以上奉職シタル者ニアラサレハ恩給ヲ得
スシテ其給額ハ俸給ノ六十分ノ一トス○諸
省卿ハ辞職ノ後チ此恩給ノ権ヲ有ス○諸省卿
ノ恩給ハ四千法ヲ越エヘカラス他ノ文官ハ任
命スル所ノ國王タリ國會両院タリ又ハ州會タ
リ又ハ州代議士會タルヲ問ハス國庫仕拂ノ俸
給ヲ受クル者ハ皆ナ三千法ヲ超過スヘカラス
和蘭ニハ俸給扣除俸給ノ内ヨリ幾分ヲ引キ去
リ積ミ置クノ設ケアリ
年ニ七百「ギユルデン」以上ノ俸給ヲ受ケル官吏
ハ任官ヨリ五個年間俸給百ニ付二十ヲ扣除
ス
年ニ四百「ギユルデン」以上七百「ギユルデン」以下ノ
俸給ヲ受ケル官吏ハ任官ヨリ八ケ年間俸給
百ニ付十二ト二分一ヲ扣除ス
四百「ギユルデン」以下ノ官吏ニハ扣除ナシ
○官吏ノ寡婦及ヒ幼孤児ハ其夫若クハ父(即チ
官吏職務執行ニ依リ受ケタル憂災又ハ負傷ノ
為メニ死亡シタルキハ其死者ノ恩給四分三ヲ

受ク可シ○此場合ノ外寡婦ノ為メ別段ノ貯蓄ノ設アリテ恩給ヲ附与ス但シ其貯蓄ニ出金スルノ義務ノ配偶者ノ有無ヲ問ハス負擔スルモノトス

意多利

総テ文官ハ奉職四十年ノ後テ退隠ノ恩給ノ権ヲ有ス可シ

然モ年齢六十五歳以上ニ達スルカ又ハ癈疾ニ罹ルカ又ハ癈官癈廳アルトキハ奉職二十五年ノ後テ同上ノ権ヲ有ス可シ

職務執行中ニ負傷及ヒ癈疾ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルトキハ年齢ノ如何ニ関セス恩給ノ権ヲ有ス可シ

政府ハ本人ノ願ノ外上ニ記シタル條件アル官吏ニ法官及ヒ教員ノ終身官ノ規則ヲ遵奉シ退隠ヲ許スヿヲ得可シ

或ル場合ニ於テハ奉職十年以下ニシテ二十五年未満ノ者ニハ一時賜金ヲ給與ス此賜金ハ奉職年限ニ比例シテ之ヲ定ム

大学校教師、大審院控訴院ノ判事ノ奉職年間ハ若シ初任ノ時三十五歳以上ナルトキハ三分一ヲ増加ス

軍役ハ文官ノ奉職年限ニ算入ス

恩給ノ最上数ハ俸給ノ平均高五分ノ四トス何レノ場合ニ於テモ、恩給ハ八千法ヲ超過スルヲ得ス恩給ノ最下数ハ百五十法ト定ム

若シ俸給ノ平均高二千法ヲ越ヘサルキハ奉職中ノ毎歳ニ付四十分ノ一ノ割合ニテ算定ス

俸給ノ高二千法ヲ超過スルキハ奉職中毎歳ニ付六十分一ノ割合ニテ算定ス

四十年以上奉職シタル者ハ俸給平均高ノ五分ノ四ニ該ル恩給ノ権ヲ有ス但シ此五分ノ四ハ八千法ヲ超過スルヿヲ得ス

夫ノ願ニ依リテ分居セサル寡婦及ヒ亡官吏ノ子ハ死者ノ享有シタル恩給又ハ死者ノ享有スヘキ恩給ノ三分一ヲ受クルノ権ヲ有ス○職務上ノ所為ヨリシテ負傷シ又ハ癈疾ニ罹リテ死シタル官吏ノ寡婦又ハ其子ノ恩給ハ俸給ノ半額トス

再婚ノ寡婦ハ恩給ノ権ヲ失フ

子丁年二十一歳ニ達シタルキハ其権利ヲ失フ

女子ニシテ十年前ト雖モ人ニ嫁シタルキモ亦之ヲ失フ

○官吏ハ左ノ場合ニ於テ恩給ニ係ル総テノ権利ヲ失フ

重罪ノ刑ニ処セラレタルキ

賄賂其他瀆職ノ罪ヲ以テ軽罪ノ刑ニ処セラレタルキ免職ニ逢フタルキ但シ先ツ行政部委員ノ意見ヲ聴キタル上ニアラサレハ免職スルヿヲ得ヘカラス

既ニ恩給ヲ得タル者ト雖モ重罪ノ刑ヲ受ケ又ハ意多利國民ノ資格ヲ失フタルキハ恩給ノ権

利ヲ失フ可シ

文武官ヲ分タス恩給ニ関スル事件ハ會計検査院ノ管轄スル所トス

西班牙

西班牙ニテハ退隠ヲ分テ二種トス法律ニ定メタル年齢ニ達セサル前ニ職ヲ罷メルモノヲ不時退隠トシ此年齢ニ達シタル後チ官ヲ罷メルモノヲ定時退隠トス

○不時退隠

官吏罪ヲ犯スキハ其官職ヲ失フ隨テ恩給ノ権オモ失フヘシ過失ナクシテ本官ヲ罷メラレタルキハ奉職十五年以上ノ者ニハ俸給ノ四分一二十年以上ノ者ニハ其半額ヲ給與ス○改革ニ依リテ廃官廃廳ノキハ奉職十二年ノ者ニハ俸給ノ四分一、十六年以上ノ者ニハ三分ノ一、二十年以上ノ者ニハ半額ヲ給与ス但シ千八百四十五年五月二十三日ノ法律領布以前ノ職務ヲ行フタルヿヲ要ス

○定時退隠

法律ニ定メタル年齢ニ達シ退隠シタル者ハ恩給ノ権ヲ有ス此権利ヲ得ルニハ六十歳ニ達スルヿヲ要ス重キ廃疾ニ罹リタルキハ此年齢ヲ要セス

此年齢ニ達シ退隠シタルキハ其恩給ハ左ノ如シ

一　奉職二十年以上ノ者ニハ俸給ノ五分ノ二

一　同二十五年以上ノ者ニハ俸給ノ五分ノ三

一　同三十五年以上ノ者ニハ俸給ノ五分ノ四

恩給ヲ得タル官吏ハ其権利ヲ親属ニ轉移スルヿヲ得可シ其親属ノ得ヘキ恩給ノ高ハ本人ノ高ノ四分一トス

瑞士

瑞士共和國ニ於テハ聯邦及ヒ郡國ノ官吏共悉ク其在職ノ期甚タ短シ（一年以上六年以下聯邦ニテハ三年間）然ルニ期限ニ至リ再任セラヽルヿアリ

斯ノ如キヲ以テ恩給ノ設ナシ然ルニ例外トシテ或ル郡ニ於テハ教育又ハ宗教ニ係ル官吏ノ為メニ恩給ノ設ケアリ又或ハ教育ノ官吏ニシテ退隠局ヲ設クルヿアリト雖ヒ此局ノ恩給ハ其払ヒ込タル金高ニ割合ヲ受取ルモノトス之ヲ要スルニ政府ヨリ恩給ヲ給与スルヿナシ稀ニ此救助法ヲ行フモノハ邑郡ナリ

恩給ノ総論

彊土廣大ノ國ニ在リテハ其政府ハ官吏ノ末年ノ救助法ヲ制定セサルヘカラス此救助ハ正義及ヒ公益ノ政府ニ負擔セシムル所ノ義務ナリ忠実老衰ノ臣民ヲ褒賞スルヿハ正義ノ望ム所ニシテ適当ノ人物ヲ得ル為メニ大ニ利アリ概スルニ官職ニ在リテ得ル所ノ収入ハ商工ヲ営ミテ得スル所ノモノヨリ甚タ少額ナリ然ルニ俸給仕払ノ精確ナルト退隠ノ恩給アルヲ以テ多

少ノ抵屈ト不快ヲ忍ンテ其官ニ從事ス

当今諸國ノ律法ヲ見ルニ恩給ヲ減シ退隠ノ年限ヲ長クセント欲スル者ノ如シ是レ退隠官吏ノ速カニ増加スルヲ見テ感觸シタル理財上ノ処分ニ外ナラス然モ其処分ハ理財ノ宜キヲ得タル者ト謂フヘカラス須ク官吏ノ員数ヲ減シ然ル後チ在官ハ者ニハ裕カニ給与ス可シ此元則ハ世人ノ唱道スル所ナレハ其実行ヲ見ルモ亦タ遠カラサルヘシ

重罪
輕罪

千八百七十三年佛國年中紀事抄譯

警視廳

第一部

部長ルクール氏（有勲位）

一局

局長ルゲユース氏

本局ハ左ノ事件ヲ司ル

既ニ發表シ又ハ未タ知レス且ツ令狀ヲ発セサル輕重罪人ヲ捜索スル事

調査及ヒ參考物ヲ司法權ニ送附スル事

金銀物ノ保証ニ関スル犯罪ヲ取調フル事

賣却及ヒ買入ヲ法律所定ノ簿冊ニ記入スル事鋭前ノ附カサル鍵ヲ賣物ニ出ス事規

則ニ定メタル時刻外ニ常人家ノ戸ヲ閉ノ事

公寧ノ點ヨリシテ質屋ノ取締ヲ為ス事

柏賣及ヒ公賣所

夜間ノ騒擾

雇工ノ類聚集ニ関スル法律ノ執行

冨

倶楽所

賭博ノ為メニ設ケタル家屋

大道ノ賭博

公ケノ場所ヲ閉鎖スル時刻ニ関スル規則

及ヒ命令

右規則又ハ命令ニ関スル犯則ヲ検証スル事

公寧上ノ點ヨリシテ石ノ場所及ヒ建物ノ取締ヲナス事

公寧ノ點ヨリシテ葡萄酒咖啡ノ小賣ノ免許ヲ与ヘルニ付意見ヲ述ヘル事及ヒ此免許ヲ取消スニ付キ公寧ノ点ヨリ意見ヲ述ヘル事

見世物師住所定ラサル楽人唱歌人ニ関スル規則ヲ定ムルニ付キ公寧ノ點ヨリ意見ヲ述ヘル事

雇人口入所ニ関スル問題、該所ノ構成及ヒ規則、該所免許願ノ審査

○拘引状、收監状、裁判言渡、判決、其他総テ裁

判所ノ命令ヲ執行スル事
罪囚ヲ他國政府ニ交付ス可キノ命令ヲ執行スル事
人ノ行衛知レサル場合又ハ幼者ノ行衛知レサル時其者ヲ探索スル事
囚繋セラレサル外國人ノ逐放ヲ建議スル事
逮捕スルニ至ラスト雖モ千八百五十二年七月九日ノ法律ノ適施ヲ受ク可キ者ヲセイス別ヨリ他州ニ逐放スル事
選挙ノ能力ナキモノヲ穿鑿シ之ヲ詐検スル事
他州ノ司法權又ハ行政權ヨリ起訴シ又ハ索セル人ニ付キ石ノ司法又ハ行政廳ト往復スル事
自殺又ハ變死
變災
石変災ニ付キ詐人ヲ吟呆スル事
檢事局ト昏類ヲ交通スル事
大道ノ病者ヲ病院ニ送ル事
無主ノ物品
衆合馬車ニ非サル他ノ場所ニ於テ拾取シタル物品ヲ受取リ、登記シ、保存シ又ハ返還スル事
石拾取物品ニ付キ照会往復スル事
善行ヲ公告スル事

○犯人履歴畢又ハ犯人履歴書（履歴書ハ裁判所ヨリ送リ来リタルモノヲ整頓スル事）

仏蘭西全國ノ通常及ヒ軍事ノ裁判所及ヒ院ノ裁判言渡ヲ蒐集シ順序ヲ立テ置ク事

被告人ノ裁判上ノ経歴ニ付キ豫審ノ法官ヨリシテ事実ヲ明瞭ナラシムルニ足ル可キ抜書ヲ渡ス事

○人民一家ノ為メニ捜索ヲ為ス事

行政司法軍事ノ為メ捜索ヲ為ス事

他別及ヒ外國ノ裁判事務ニ関シ捜索ヲ為シ及ヒセーヌ別ノ検事局ト照会往復スル事

諸別ノ行政ヨリ出テタル決議及ヒ書類ヲ送致スル事

國庫ニ對スル負債主ヲ捜索スル事

罰金及ヒ裁判費用ノ徴収ニ付キ参考トナル可キモノヲ指示スル事

無資力ノ証明ヲ作ル事

直税間税ニ関スル詐偽禁制ノ商品

二局

局長ハ糺問係ノ警部長ボードマン氏ナリ

本局ハ左ノ事件ヲ司ル

逮捕シタル犯人ニ係ル証拠物及調書ヲ受取ル事

被告人ヲ検事ニ送致シ其被告人ノ逮捕ヲ検証セル調書ヲ検事局ニ送付スル事

証拠物件ヲ始審裁判所ノ昏記局ニ送ル事」
諸刑ノ司法権ヨリ出テタル令状ニ依リテ
逮捕シタル犯人ヲ糺問スル事
犯人其人ニ関ル事ヲ吟呆スル事
偽名ノ吟呆
放免ノ後タ囚人ニ付テ行フ可キ処置
囚繋サレタル外國人ノ逐放ヲ建議スル事」
已ニ逮捕サレ且ツ千八百五十二年七月九
日ノ法律ヲ適施ス可キ者ヲセーヌ刑外ニ
逐放スル事
拿捕者ニ賞金ヲ附与スル事
○放免サレタル乞丐ニ関スル處置
外國産ノ乞丐及ヒ救育ノ名義ヲ以テセー

ヌノ養育ニ送ル可キ貧人ヲ審査スル事」
満期放免ノ者、懲役人、禁錮人其他ノ刑人ヲ
監視スル事
満期放免ノ後ヲ監視ニ付シ其監視ヲ破リ
テ逮捕サレタル者ヲ審験スル事
満期放免者ノセーヌ刑ノ住居ノ願及ヒ受
刑地ニ移送スルノ処置ニ付キ建議スル事」
復権願ヲ審験スル事
○娼妓ノ人名ヲ登録シ置ク事
娼妓ニ関スル公寧及ヒ衛生上ノ処置
黙許賣淫所ノ監視
密賣淫婦ヲ捜索スル事
幼年ノ婦女ニ付キ其親属ト照会往復ヲ為

ス事
風俗ノ点ヨリシテ親屬ノ事ニ行政上ノ干
渉ヲナス事
淫迭放蕩ヲ以テ世ノ風儀ヲ破壞スル所為
ヲ禁制スル事猥褻ノ畫面ヲ公布シ又ハ販
賣スル者ヲ処分スル事
葡萄酒咖啡等ノ小賣免許及ヒ其免許取消
ニ付キ風俗ノ点ヨリシテ意見ヲ述フル事

三局

局長 レニエー氏
本局ハ左ノ事件ヲ司ル
禁囚監（メーゾン、ダレー）法廳監（メーゾン、ド、ゼスチース）懲治監（メーゾン、ド、コレクシヨン）養丐舍（デポー、マンデレテー）等セーヌ州監獄内部ノ取締
石數種ノ監獄ニ繫カレタル囚徒ヲ詳査シ
順序ヲ立テ置ク事
囚徒ト交通スルノ允許ヲ与ヘル事
囚徒ヲ移送スル事懲役地又ハ中央集監（メーゾン、サントラル）ニ向テ刑人ヲ出発セシ
ムル事
各囚別房馬車
訴ヲ受ケテ逮捕サレ警察署ニ囚繫サレタ
ル者ヲ警視廳ノ拘留所ニ送附スル事
幼年ノ囚徒、其内男子ハ懲訓監（メーゾン、デ
ゲユカシヨン、コレクシヨンネール）女子ハ

サンラサル監ニ囚繋ス
家長ノ懲戒
幼年囚徒ノ為メニ設ケタル職工会社
仮出獄
○セーヌ州ノ監獄及ヒウイレール、コテレ
ノ養丐舎ノ入費定額豫算ノ草案ヲ起ス
事
右定額豫算ニ関スル覚書ヲ内務卿及ヒセ
ーヌ州々会ニ差出ス事
囚徒ノ食養被服等ノ事
獄舎用ノ什具、薪炭、燈油ヲ買入レ及ヒ舎館
ヲ保存スル事
右ニ関スル買入明細帳ヲ作ル事

通行券

監内宗教ノ事務
囚徒ノ工業、各種ノ仕上ケ人及ヒ請負人ト
約束スル事、囚徒ノ工造物ノ價ヲ定ムル事、
仕事場ヲ監視スル事
監獄ニ係ル会計ノ計算
出費ノ登録、覚書、計算書、買入品ノ勘定書ヲ
験真スル事
監獄属吏ノ被服
四局
局長ゲユモンテ氏
本局ハ左ノ事件ヲ司ル
内国又ハ外國通行券ヲ下渡レ及ヒ検査ス
ル事

途中救助費附ノ通行券
滞在免許状ヲ下渡ス事
獵ニ関スル規則ヲ定ムル事
獵免許状ヲ下渡ス事
○工夫及ヒ雇人ニ其就職去職ノ年月日ヲ
記シタル小帳ヲ渡ス事、大道ニ出張セル商
賈仲人ニ鑑牌及ヒ免許ヲ与ヘル事、天秤商
人ニ登録表ヲ下渡ス事襤褸買ニ鑑牌ヲ渡
ス事
○旅館、普通ノ家屋、什具附ノ室ニ住寓セン
ト欲スル者ヨリ差出シタル届昏ヲ登録シ
置ク事
右旅館等ニテ旅人ノ轉寓

旅館宿泊帳ニ旅人ノ氏名ヲ記載セサル犯
則
五局
局長ルソー氏
本局ハ左ノ事件ヲ司ル
乱心者ト認メラレタル者ヲ吟呆スル事、之
ヲ特別ノ病院（サントアンヌ等ノ疒癲院）ニ
ラレトンノ病院及ヒ健全病院（メーゾン、ド、
サンテー）ニ送致スル事
セーヌ州ノ狂院ニ入リ恩給料ヲ受クル者
ヲ験真スル事
乱心者及ヒ健全病院ヲ監視スル事
乱心者ヲ州内ニテ他ノ所ニ移送スルコト

小児ノ救助

乳母

乱心ノ外國人ヲ其本國ニ送附スル事

恩給ヲ受ク可キ者ヲ治療スルノ許アル産婆ヲ監視スル事

棄児孤児ヲ棄児院（オスピス、デ、サンファン、アレスラ）ニ入ル事

棄児孤児ノ身分ヲ知リ及ビ其親属ヲ発見スル為メ捜索ヲナス事此事件ニ付キ救助係リノ行政部ト照会往復スル事

大道ニ迷フタル幼児ヲ其親属ニ返ス事

○巴里及ビ警視廳ノ管轄内ニ小児アル家ニ雇ハレント欲シテ他ヨリ来リタル乳母ノ氏名ヲ登録シ置ク事

乳母及ビ此乳母ニ委ネタル小児ニ関シ他ノ官廳ト照会往復スル事

小児ヲ乳母ノ家ニ連レ行ク者乳母ニ住居ヲ貸ス者又之ニ他ノ物件ヲ貸ス者ヲ監視スル事

乳離シヲ世話セル家ノ免許并ニ監視

保安警吏ノ職務

○濫觴　地方警察官各部ノ職員ハ皆兼ネテ兇徒ニ係ル事ヲ掌ル但シ匪徒ヲ訪搜シテ之レヲ捕獲スルニ至リテハ特ニ此レ而已ヲ以テ其職トヲ為ス一隊アリ其人皆世故経験ニ熟練ス其職務ヲ名ツケテ保安ノ職務ト曰ヒ又單ニ保安ト称ス已黎府ノ静謐ヲ致スハ皆ナ其力ニ非サルハナシ然レトモ其創置今ヲ距ルコト甚日シカラス其後沿革ヲ経ルコト亦多シ皆重事ト為ス往時犯人ヲ捕拿スルハ備警兵常備兵又ヒ邏卒ノ任タリ然レトモ其職務権限極メテ分明ナラス因縁茲ヲ為シ僥倖スル者多シ是レ專ラ捕盜ニ任スル者ナキノ致ス所ニシテ兇漢匪徒刑網

ヲ脱シ白昼道路ニ公行セリ千八百十七年時ニ「ダングレス」氏警視総監タリ「ブサドフク」ナル者アリ創意シテ保安警吏隊ナル者ヲ構成ス当時ノ論以為ヘラク犯人ノ情ヲ知ラント欲セハ自ラ亦タ犯人タラサル可カラスト数年ヲ歴ルノ後ト雖モ猶其ノ謬妄ヲ覚ラサリキ

○職員　現今保安警吏ノ職員左ノ如シ警察副使一人其ノ長タリ警察官記四人（コミサイヤ）（ビユロウ）邏卒長六人（ブリガデエル）邏卒（ヒエルベルトウル）一百十七人邏卒副（オルドリエイル）七人計凡ソ一百四十五人トス今千八百六十八年巴黎一府ニ於テ勾留ヲ被ル者ノ数ヲ閲スルニ三万五千七百五十一人ノ多キニ至リ中ニ就キ三万千八百七十九人ハ之レヲ検事ニ廻シタリ而シテ之ヲ縛捕シタル者ハ則僅々彼レカ如キニ過キス其職ヲ執ル敏妙殆ト遽ニ信シ難キ者アリ

巴黎府ニ無頼悪漢多シ日々市街ヲ徘徊ス警吏ノ務最モ此輩ノ名籍ヲ知リ各自ノ性情ヲ詳ニスルニ在リ乃チ彼輩罪ヲ犯シタルノ嫌アルカ若キハ罪ヲ犯シタル者ハ其々ノ外ニ出サルコトヲ推測スルコトヲ得ルヲ要スルナリ

保安警吏ハ見サル所ナカルヘク聞カサル所ナカルヘシ而モ已レハ則チ或ハ人ノ識ル所ト為ルコトナキヲ要ス群盗ノ習俗言動須ク尽ク習ヒテ之レニ熟スヘシ是レ之レヲ発見シ之レヲ蹤跡シ而シテ之レヲ捕獲スルコトヲ得ンカ為メナリ今保安警吏ノ此レ等ニ熟スルコト真ニ

警クヘキモノアリ盗ニ遭ヒタルコトヲ訴ル者アレハ則チ彼レ輙チ曰是レ必ス某ノ為ス所今夜我倚之レヲ某所ニ獲ント既ニシテ果シテ其言ノ如シ此ノ如キ者一ニシテ足ラサルナリ「カンレイ」氏曰警吏ト為ルハ兵卒ト為ルト同カラス今兵卒ト為ルニハ抽籤ヲ以ス偶然ノミ若シ夫レ警吏ト為ルニハ自然ノ能力ヲ具スルニ非サレハ能ハス而シテ現今ノ邏卒能クヨクシテ堪フル者幾希シ其将来ニ於ケルモ想フニ忘ニ然ルヘキノミト是ノ言詢ニ然リ夫レ警吏ト為ル方アリ必ス先ツ機警捷給而モ喜ミテ其職務ニ服スルノ概アルコトヲ要ス其他ノ如キニ至リテハ甚ク緊要ナリトセス経験ニ因リテ以テ得ヘキノミ民間ノ言ニ曰ク警吏ハ獵夫ナリト其能ク歓ヒ能ク詐リ機変百出獵夫ノ狗ヲ駆ルニ似ルアルヲ以テナリ而シテ其事既ニ遂クルニ暨ヒテハ則チ貌ヲ変シ形ヲ換ヘ復タ其人ヲ識ルヘカラス平生ハ反リテ弁口喨々意気欣然々レトモ其眼光烱々睹サル所ナシ吾嘗テ其方ニ事ヲ遂ケタルヲ見ル事疑獄ニ係リ頗ル煩砕労スルコト尋シ而シテ其人ムモ場々喜色面ニ溢ル猶夫ノ獵夫禽ヲ射テ一発両中スルモノヽコトクナリキ

○事犯ノ防察、監視違犯　保安警吏ノ職ハ独リ裁判所ノ判決若クハ令状アルニ因リ犯人ヲ捜索スル為メニ設ケタルノミナラス犯罪ヲ未発

ニ過ムルコトヲ得ル時豫メ之レヲ防クカ如キ亦其務メタリ凡ソ現行犯罪アレハ保安警吏犯人ヲ逮捕シ檢察官ヲ佐ケ訪訊ヲ行ヒ犯時ノ事狀巨細ヲ拾摭ス又裁判事件紛糾了解ニ苦シム者ノ如キハ保安警吏豫メ之ヲ整理シ以テ裁判所ヲシテ稍々方向ヲ知リ依拠スル所アラシム警察使屋宅搜査ヲ為セハ則從行シ犯人刑滿ヲ放免セラレタル者及ヒ監視ニ附セラレタル者ハ則其品行ヲ監察ス而シテ最モ保安警吏ノ繁劇ヲ增シタル者ハ則監視ノ違犯ト為ス蓋シ近世鐵道益々開ケ地方ニ在リテ監視ヲ被ル者巴黎ニ來ルコト極メテ易シ況ヤ巴黎ハ則チ繁華ノ中央有ラサル所ナシ故ニ彼レ其平素寢

寢ニ至ルコトヲ思フ所ナルヲヤ故ニ犯人ノ茲ニ來リ聚ル啻ニ國内諸州郡ヨリスルノミナラス之ヲ遠クシテハ「ガイエイヌ」島「ヌーブエルカレドニー」島ヨリ來ル者アリ千八百五十二年以還千八百六十七年十二月一日ニ至ルマテ二島ノ獄ヲ越エテ巴黎ニ來ル者其數一千零五人ニ上レリ或ハ「ジロウ、ド、ガトブウルス」ノ如キアリ途ニ海ニ沒シテ死スト雖モ其巴黎ニ來ルヿヲ果セル者固ヨリ衆シ即「アルジヤントウイユ」謀殺事件ノ如キ亦以テ一証ニ充ツヘキナリ

拘留

○逮捕　凡漢ヲ逮捕シタルトキハ仮リニ警察署ノ拘留所ニ囚繋シ之レヲ警部ノ面前ニ引致ス所犯ノ罪ス可キナキカ又ハ逮捕ノ錯誤ニ出タルトキハ直チニ放免シ若シ之レニ反シ軽罪又ハ重罪ノ明白ニシテ疑フ可カラサルトキハ調書ヲ作リ被告人ヲ各囚別房馬車ニ乗セテ之レヲ警視廳ニ送致ス

○各囚別房馬車　此護送馬車ノ数ハ六輌アリテ毎日三回ツヽ各警察署ヲ巡駆シ囚人ヲ護送ス此馬車ノ設置ハ千八百五十六年ヨリ始マリ実ニ人情ニ適シタル制度ナリ昔日ニ在リテ吾人カ屢々目撃シタルカ如ク護送ノ途中大道ニ

於テ一個ノ悪漢ト四名ノ護送兵ト争鬪スル等ノ奇観ヲ現出セシムルノ弊ヲ防クニハ最モ其宜キヲ得ルモノト謂フヘシ

○昼夜調　護送馬車ハ陸続アルライ街ニ入リ中央分隊ノ巡査馬車ノ前後左右ヲ警護シ脱囚ヲ豫防シテ進行ス警視廳ニ到レハ囚人ヲ一人ツヽ特別ノ局ニ引致ス此局ハ昼夜共ニ囚人ノ事務ヲ取扱フヲ以テ之ヲ昼夜調ト称ス此局ニ於テハ一葉ノ紙ニ被告人ノ氏名、其身分、逮捕ノ原由、護送ノ命令ヲ下シタル官吏ノ官名氏名、調昏ニ加添セル昏類物件等ノ数ヲ記載ス石最初ノ午続ヲ畢リタル後ヲ各囚ヲ拘留監（デポー）ニ収繋ス拘留監ハ近頃再築シタル廣大ノ獄舍ニシテ其窓ハ裁判廳ノ表面ノ下部ニ対シテ開穿セリ

○麭麺　囚人ヲ拘留監ニ入ルヤ第一ニ麭麺ヲ以テ之ニ給ス蓋シ警視廳ニ於テハ悪事ノ犯シテ逮捕サレタル者ハ悉ク貧困饑飢ニ逼リテ罪ヲ犯シタル者ト見做スヲ以テ元則トスレハナリ監内ニ昏記局アリテ入檻アル毎ニ各囚ノ氏名其他ノ表章ヲ記載シ置ク所トス其後チ囚人ヲ他ノ囚徒ト雑居セシムルモ不都合ナキハ雑居室ニ入レ若シ別段ニ秘密ヲ要スルキハ各囚別房制ノ室ニ入レ置ク男女娼妓幼者ノ獄舍ハ各其間ニ空室間及ヒ空地ヲ置キテ嚴ニ隔絶ス男囚ノ諸用ハ獄番之レヲ司リ女囚ハ「マリ

ージョセフ」教会ノ信女之ヲ司ル

○人相調　係安係係ノ取調役ハ毎朝一個ノ特別ノ小室ニ来リテ重罪被告人ヲ一名ツヽ糺問ス之レヲ人相調ト云フ蓋シ其糺問ハ先ツ本人ハ已ニ刑ニ処セラレタル者ニ非サルヤ否ヲ探ルカ故ニ其人相骨柄ヲ審査スレハナリ此取調役ハ本人ノ白状ヲ得ンコトヲカム事実発見ノ為ノ二因ヲ一時ニ糺問スルコトノ必要ナルキハ其注意最モ深ク二因ヲ遠ク隔テヽ之ヲ座セシム時トシテハ背中合セニ置キ僅カノ通信ニテモ為スヿ能ハサラシム

○危険ノ混雑　拘留監ニ於テ罪囚ハ一モ困却ノ色ヲ顕サス大室中ニ或ハ歌フ者或ハ笑語スル者アリ詩人ハ獄舎ヲ詠シテ「悔悟ノ休暇ナリ」ト云ヘリ余ヲ以テ見レハ尚ホ一層甚シキカ如シ夜間ハ室内ノ壁ニ傍フテ枕ヲ配置ス軽重罪ノ捕獲物（罪囚ヲ云フ）之レニ就キ休ト休ト相接シテ臥ス往々或ル重大ナル乱雑ヲ生スルコトアルモ僅ヲナル獄番ノ力之レヲ制止スルコト能ハス

拘留監ノ室ハ各囚別房ノ制ヲ増加シ囚人ヲシテ一人別居セシムルニ至ルコトハ世人ノ渇望スル所ナリ完璧ノ一所ニ集合スルハ仮令監察ノ如何ニ精密ナルモ甚タ危険ナリ強暴ヲ逞シテ大ニ徳義ヲ破リ又タ同囚互ニ意ヲ通シ其同囚ハ往々共犯者ニシテ謀リテ犯罪ノ時他ノ場

所ニ在リシモノヽ如クニ偽リ又ハ証拠ヲ消滅シ又ハ法廳ヲ欺クニ足ル可キ弁護ノ案定スルニ甚タ便利ナリ

○懲戒ス可カラサル無宿　拘留監ニハ独リ先漢ハミナラス巳里ノ市街ニテ捕ヘタル無宿人在リ路上ノ踞床ニ棄テラレタル老耄者迷子、棄テラレ且ツ仏語ヲ解セサル外國人、一度自殺ヲ試ミテ助ケラレ再ヒ之レヲ試ミムルノ恐レアル者、棄テラレテ世ノ慈善者ノ救助ヲ得サル孤児等ナリ拘留監ハ全ク一時囚繋ス可キ獄舍ナリ故ニ日々入ル者アリ出ル者アリテ新旧交代止ム時ナク其喧噪実ニ堪ユ可カラス

○紀問　逮捕サレタル犯人ニ関スル証拠物ハ之ヲ一件書類ニ添ヘ直チニ警視廳ニ送ル該廳ハ之ヲ審査シ之ヲ整頓シ犯人ト共ニ之ヲ裁判所ニ送附ス然レトモ裁判所ニ送附スル前已ニ犯罪ハ明カニ検証サレルコトヲ要ス無宿又ハ乞丐ノミノ犯罪ニ付テハ警視廳ハ其原因及ヒ事情ヲ吟味シ被告人ヲ紀問ス警視廳ハ従来ノ経験ニ依リテ社会貧人ノ情実ヲ熟知シ之レヲ処スル極メテ信切ナリ該廳ハ人ハ欺カレ易キモノニシテ往々貧人ノ詐ノ申立ヲ聞キ之レヲ信シテ憫諒ノ情ヲ起スコトアルヲ知ルヲ以テ今ハ已ニ欺カレルノ恐レナシ然レトモ実ニ憫諒ス可キ者ニ至リテハ其信切ナルコトハ警視廳ノ事務ヲ実見スルニアラサレハ人之ヲ疑フナル

可シ夫ノ懲戒ス可カラサル無宿ニ至リテハ別ニ紀問ヲナサス直チニ之レヲ裁判所ニ送附ス

〇迷子棄子　係リ長一人ハ特ニ無宿迷人其他捨テノ哀癈人ノ紀問ニ従事ス該長ハ之レニ刑罰ヲ課スルヲ得ス蓋シ仏國ニ於テハ刑ヲ科スルヲ得ル者ハ独リ法律ノミナレハナリ然レモ慈善ノ処置ヲ行フニハ該長ハ若大ノ権威ヲ有ス巴里ノ貧困ナル迷人ハ捨テ此局ノ手ヲ経サルモノナシ其内幼者ヲ以テ第一トス此幼者ハ怒ト悲トニ依リテ父ノ家ヲ逃亡シタル者、幼稚ノ思想ニテ前後ヲ考ヘス父母ノ制御ヲ脱セントスルモノナリ此等ノ者ハ一時ノ情慾ヨリシテ家ヲ出ラタルカ故ニ警察署ニ一夜ヲ過セハ忽チ後悔ノ念ヲ生シ両手ヲ以テ頭ヲ押ヘテ落涙ス其之ヲ諭ス亦タ難キニアラス然レモ其父ヲ呼ヒ来リテ之レヲ諭スニ至リテハ容易ナラス父ハ必ス彼カ如キ無頼ハ我カ好マサル所ト陳シ且ツ無慈悲ニモ云フ汝ヲ勝手ニ他所ニ行クヘシト然レモ父ノ心中ニ恩愛ノ綱全ク断絶シタルニアラサルヲ以テ警察署ハ尚ホ之レヲ続キ止メント試ムルヲ得ルナリ是レ巡査ノ其職務中ニ於テ迷子ヲ拘引シタルキノ状況ナリ此迷子ノ外ニ屢々見ル所ノモノアリ即チ悪心又ハ極貧ノ父母其艱ヒ口ヲ減センカ為メ棄テ去リタル幼児是レナリ此置キ去

リノ罪ヲ犯スハ尋ク父母カ轉居ヲ為スノ日ニ在リ故ニ此幼児ノ指示セル家ニ至リテ見レハ已ニ空屋ニシテ人ヲ見スシテ他ニ問ハハ一人トシテ父ノ如何ニ成リ行レヤ知ル者ナシ抗是幼児ヲ棄児院ニ誘ヒテ此ニ入レ置キ児ハ未タ嘗テ受タルコトナキ十分ノ養育ヲ受クルナル可シ

○千八百四十九年十二月三日ノ法律　此法律ハ外國人ニシテ我國土ニ在リテ騒擾ノ原由トナル者アルヤ司法省達ヲ以テ放逐スルコトヲ許セリ此法ハ吾人カ今日ニ記憶セル如ク政畧ヲ以テ制定サレタルモノナリ然レトモ此法ヲ解釈シ其區域ヲ擴張シ「ピックポケット」（英語我金着切リト同意）掏摸、欺騙「グレック」（欺騙ノ一種）ノ類ニシテ自國ニテ官ニ注目セラレシ法廳ノ手ヲ経テ獄舍ニ繋カレルノ恐アルヲ以テ我國ニ来リタル者ニ及セリ外國人我カ重罪審院又ハ軽罪裁判所ニ於テ重軽罪ノ刑ヲ受ケ其後行狀不良ナルコト明白ニシテ警察ノ干渉ヲ要スキハ行政処分ニ拠リ此外國人ヲ汽車ニ乗セ恰カモ行目不足ノ荷物ヲ差出人ノ方ニ送リ戻スカ如ク国疆ニ送リ出ス

○千八百五十二年七月九日ノ法律　他ノ法律即チ此千八百五十二年七月ノ法律ハ他ノ刈ニテ出生シ或ル刑ヲ受ケ又ハ無宿又ヒ乞丐ノ生活ヲナス者ニ巴里府内ニ止マルヿヲ禁スルヲ

得ヘシト定ム此法ハ之ヲ実施セルヿ甚タ稀ナリ然シ氏此法ニ拠リテ放逐サレル者ハ十中ノ八九迄ハ警視廳ヨリ靴一足ト旅費トヲ受ケテ出発ス其旅費ハ千七百九十年五月三日及ヒ六月十日ノ法律第七条ニテ定メタルモノニシテ其高固ヨリ僅少ナリ今日ニ至レハ尚ホ一層ノ僅少ヲ覚フ（貧困人通行券ヲ有スル者ニハ一「リ」ユー」毎ニ三「ス」ー」ヲ給ス）又タ警視廳ハ監視ニ付シタル者ニ其行キ且ツ住ス可キ市府ヲ指定ス其住居ノ地ハ刑人ノ選択ニ依リテ之ヲ定ム或ル場合ニ於テハ本人ノ選択ヲ許サヽルコトアレ共之ヲ述フルモ不要ナリ又タ警視廳ハ刑ヲ受ケタル者ニシテ他所ニ於テハ職業及ヒ生計ノ方法ヲ得ル能ハサレ氏只タ巴里ニ於テ独リ之ヲ得ルヿヲ確認シタルヿハ之ニ巴里ニ止リ住スルヿヲ許スヲ得可シ此巴里住居ノ允許ハ一時ノモノニシテ警視廳ハ時々之ヲ更改ス可シ若シ允許ヲ得タル者ニ対シ僅カノ告訴ニテモアルヿハ直チニ之ヲ取消スヿヲ得ルナリ

○犯人履歴票ノ事

○犯人履歴票ノ目的

犯人履歴票ヲ設クルノ目的タル各人ノ履歴ヲ知ルニ在リテ一モ犯人履歴棚（カレエー、ジエエール）ト異ナル所ナシ

○犯人履歴票ノ起原

犯人履歴票ノ設置ハ実ニ千八百三十三年ニ在リ今其起源ヲ尋スルニ千八百八年治罪法ヲ制定スルニ當リ立法者ハ諸裁判所ヲシテ刑事被告人ノ履歴ヲ知ルヲ得セシメント欲シ治罪法中ニ第六百条、第六百一条及ヒ第六百二条ヲ設ケタリ

第六百条ニ曰ク軽罪重罪裁判所ノ昏記ハ凡テ禁錮又ハ禁錮以上ノ刑ニ処セラレタル

者ノ姓名、職業、住所ヲ「アベセ」ノ順序ニ従ヒ
別ニ設クル所ノ簿冊ニ記載ス可シ此簿冊
ニハ各事件及ヒ刑ノ言渡ノ概畧ヲ記載ス
ルモノトス若シ昏記此等ノ事ヲ記載セサ
ル時ハ其都度罰金五十「フランク」ヲ科セラ
ル可シ

第六百一条ニ曰ク昏記ハ三ヶ月毎ニ此簿冊
ノ謄本ヲ司法内務ノ両卿ニ差出ス可シ若
シ昏記此規則ニ違背スル時ハ罰金百「フラ
ンク」ヲ科セラル可シ

第六百二条ニ曰ク司法内務ノ両卿ハ此等ノ
簿冊ニ基キ同様ノ式ニテ一大簿冊ヲ作ラ
シム可シ

治罪法制定ヨリ犯人履歴票設置ニ至ルマテノ
二十五年間ハ若シ法官刑事被告人ノ履歴ヲ知
ラント欲セハ以上ノ二大簿冊ニ由ルノ外ナカ
リシ然レモ此等ノ簿冊ハ捜索ニ便ナラサルヲ
以テ殆ント治罪法ノ規則死文ニ属セントスル
ニ至レリ於是千八百三十三年ヲ以テ治罪法第
六百二条ニ基キ警視廳ニ於テ作リシ簿冊ヲ廃
シ而シテ之ニ代ユルニ刑ヲ受ケタル者ノ
姓名、職業、身分及ヒ仏國ニ於テ受ケシ所ノ刑ノ
言渡ヲ記載スル所ノ紙片ヲ以テシタリ此紙片
タル「アベセ」ノ順ヲ逐ヒ之レヲ備ヘ置ク可キモ
ノニシテ恰モ中央ニ在ル犯人履歴(カルテー・ジュディシエール)棚ト云フモ
不可ナルナキナリ

附言　千八百五十年十一月六日付ノ司法卿達ヲ以テ司法省ニテ作リシ所ノ大簿冊ヲ廢シタリ

○犯人履歷票ト犯人履歷棚トノ比較ノ事

千八百五十年犯人履歷棚ヲ設クルニ至ルマテハ犯人履歷票ノ必要ナリシヤ固ヨリ論スルヲ俟タス然レ氏仮令ヘ犯人履歷棚ヲ設ケシノ後モ尚ホ犯人履歷票ノ有用ナル所ナレトモサルナリ請フ以下ニ其優劣ヲ論セン

先ツ犯人履歷票ノ劣ル点ヨリ挙クヘシ

第一点。犯人履歷票ノ公ナラサル事○抑モ犯人履歷票ヲ設ケシハ素ト諸裁判所及ヒ警察ニ関スル諸官衙ノ為メナルヲ以テ人民ハ固ヨリ官衙ト雖モ其枝葉ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

第二点。犯人履歷票ニハ陸海軍裁判所ノ裁判言渡、商人身代限ノ裁判言渡、其身代持直シノ裁判言渡等ヲ掲ケサルコト

第三点。犯人履歷票ハ仏蘭西全國ノ為メニ有用ナラサルコト○巴里其他、近縣ノ為メニハ便利ナリト雖モ巴里ヨリ隔絶スルコト甚シキ土地ニハ往復ニ時ヲ費スヲ以テ犯人履歷票ノ

用殆ントナキニ近シ

偖又以下ニハ犯人履歴票ノ優ル点ヲ挙ン

第一点 犯人履歴票ニハ無罪放免ノ言渡ヲ掲クルヿ〇犯人履歴ニハ之レヲ掲ケス

第二点 犯人履歴票ニハ実際犯人履歴ヨリ抜萃スル所ノ第二号履歴昏ヨリ誤リキコト〇何トナレハ昏記カ治罪法第六百条ニ従ヒ内務省ノ為メニ作ル処ノ昏類ハ至リテ簡單メリト雖モ履歴棚ノ履歴昏ニ至リテ然ラス第二号ノ履歴昏ハ第一号履歴昏ニヨリテ作ルモノニシテ而シテ此第一号履歴昏ハ之ヲ入リタル昏類中ヨリ抜萃スルカ故ニ其間ニ誤生シ易キヲ以テナリ

尤モ履歴票ハ履歴棚設置ノ後ト雖モ尚ホ存スルモノニシテ履歴棚ト共ニ行ルヽナリ

○犯罪人履歴ノ事

犯罪ノ種類モ多クク又犯罪人ノ数モ衆カ為メニ犯罪取調困難ニシテ錯誤生シ易キヲ以テ恐ラクハ惡漢ノ履歴ヲ善ク知ラサル可カラス已里警視廳ニハ犯罪人履歴簿ナルモノアルヨリ極メテ確実ニ犯罪人ノ履歴ヲ知ルコトヲ得ルナリ而シテ此制タル恐ラクハ独リ仏國ニ之レアルノミニシテ諸外國ニ於テ之レニ模倣セントヽ欲シ此制ヲ設ケシ國アリト雖モ未タ全ク之レヲ模倣スルニ至ラサルカ如シ偖犯罪人ノ履歴ノ事ヲ取扱フ所ノ局ノ景狀ヲ述ンニ○廣大ナル三室若シクハ四室ノ設ケアリ其室ニハ日光能ク入ラスシテ昼モ尚ホ暗ク瓦斯燈点シアリ其

中ニハ彼處此処ニ異キ板ノ阜子ヲ置キ屬吏之レニ憑リテ事務ヲ執リ又其傍ニハ桝棚アリテ其中ニハ天井ヨリ床マテ吞類ノ入レアル蓋ナキ箱アリテ恰モ室内ニ廊下アルノ狀ヲ呈セリ此処ハ即チ犯罪人タルノ貴号ヲ有スルトノコトヲ証スル為メニ必要ナル吞類ノアル所ニシテ仏蘭西帝國内ニ犯セシ諸犯罪ハ其犯シタル場処ハ巴里デモ「マエー」デモ「スーメアー」デモ「ラグアー」デモ此処ニ其証跡其証拠アルモノナリ

凡ソ人犯罪ノ廉ニテ裁判所ニ引致セラルヽアレハ其姓名、年齢、生國、其外詳ニ人相ヲモ紙片ニ記シ置キ処刑ノ言渡ヲ受クルトキハ其年月日、裁判言渡ノ理由其受ケタル刑ヲモ記スモノトス又若シ捜索ヲ免ルヽ為メニ偽名ヲ用ユル者アレハ毎ニ亦之レヲ紙片ニ記シ置クモノトス此ノ如ク為ストキハ頗ル煩雑ヲ覚フルト雖モ亦タ人違ヒナキコトヲ確ムル為メニハ欠ク可カラサルノ事ナリトス然ラスンハ犯罪人ヨリ十五回若シクハ二十回モ其名ヲ変シテ処刑ヲ受ケシ者ナドアリテ彼ノ「ラスネール」ノ如キハ三十二ノ偽名ヲ用ヒシコトアリテ犯罪人ノ人違ヒナキヿヲ保スル能ハサルナリ

夫レ此犯罪人履歴取扱ノ事務タル一方ヨリ犯罪ニ関スル各類ノ送致アレハ又一方ヨリ犯罪人ノ履歴ニ付キ問合ノ来ルアリテ其煩劇ナル

コト十二名ノ屬吏終日其事務ヲ執ルモ殆ント之レヲ弁スル能ハサルナリ偖棚ニハ現今四千六百十箱アリテ一箱ニハ少クモ七百七十冊アリ又其履歴帖ノ総計ハ三百四十五万七千五百通ニ及ベリ「マルテン」姓ノ者ノ履歴帖ハ二十箱「ルフエブル」姓ノ者ノ履歴帖ハ十六箱「ベルナール」姓ノ者ノ履歴帖ハ十四箱「ル、ロワール」姓ノ者ノ履歴帖ハ十三箱「ゲユラン」姓ノ者ノ履歴帖ハ十二箱「ル、ルー、エ、レーノー」姓ノ者ノ履歴帖ハ十一箱「ジセラール」「マリー」「ゲユボアー」「プチー」「ローラン」姓ノ者ノ履歴帖ハ十箱アリ履歴帖ノ尋キコト如此ナルヲ以テ履歴帖合アルニ当リテハ帖類ヲ展閲スル「幾千枚、時ヲ費スコト幾時間ニ至ルコトアリ

右等ノ帖類中最モ曰キ者ハ紀元千七百五十六年ニ遡リ而レテ当時ニ在リテハ刑ヲ受ケシ者ノコトヲ帳簿ニ記セタリシ抑モ此帳簿ヲ製スルノ事タル当時ニ於テハ勝チタリシガ千七百九十二年ニ至リ必スシモ之レヲ作ラレムルコトヽ為シタリ然シ氏此等ノ帳簿ハ其紙數多クシテ為メニ索引ヲ要シ展閲益々難クシテ帳簿ヲ製スルノ益ナキニ至ラントシタリシ是ニ於テ千八百三十二年ヲ以テ一層簡便ノ方法ヲ案出シ初メテ犯人ノ履歴ヲ紙片ニ帖スルニ及ヘリ而シテ回帳簿ヲ警視廳記録庫ニ納ルヽニ際シ文字ノ順ヲ逐ヒ索引ヲ作リ置シヲ以テ九十年以

未仏國其他海外ノ領地ニ於テ申渡シタル所ノ
処刑ヲ詳ニ知ルヿヲ得可シ人若シ是等ノ書類
ニ付キ展閲スルトキハ兇悪ナル者カ如何ニ後悔
スルヿナキヲ発明スルニ足ラン例ヘハ「ジヤン、
グユイヨー」ナン呼フ者ハ千八百五十四年十二
月二十二日ヨリ千八百六十八年十一月十四日
ニ至ルマデ処刑ヲ受ケシヿ二十四回、又「アント
ネン」ハ千八百三十三年ヨリ千八百六十八年ニ
至ルマテニ処刑ヲ受ケシヿ七十一回、又「ジヤン、
ユブラール」ハ千八百十八年十二月四日ヨリ廿
七年五ヶ月ノ禁錮、二十五年ノ懲役ニ処セラレ
又其後受ケシ所ノ刑ヲ合計スレハ二百三十五
年ノ徒刑ニ処セラレシヿヲ捴計スレハ処刑ノ
年数二百八十七年ノ多キニ至レリ
石等ノ犯罪人履歴ヲ製スル為メニ参看スル書
類ハ其数ナカラスレテ毎年諸裁判所又典獄
ヨリ犯人履歴調査局ニ送致スル所ノ表ハ其数、
四千九百三十三ニ達ス（附言参看）偖又人柄ノ問合ニ
至リテハ各裁判所各控訴院其他、人ノ履歴ヲ知
ラント欲スル行政ノ諸官衙、又ハ葡萄酒賣捌人、
御者、産婆、乳母世話人等カ営業ノ許可ヲ乞フ者
警視廳ノ各課ヨリ為スヿ所ノ問合等仏國全部ヨ
リ集マル所ノ者ヲレテ合計スレハ拳テ数フ可
カラス
夫レ此制度タルヤ実ニ良制ナリ若シ人其制度
ヲ講シ且ツ其行ハル、所ヲ見レバ彼ノ賢明ナ

ル法官「ベリアー、センプリー氏カ」若シ犯人履歴簿ニ載ラスンハ完全ナル治罪ノ法ヲ得ル能ハス」ト云ヒシノ不当ナラサルヲ知ルニ足ラン

附言

○「セーヌ」州檻獄日表（七ヶ所）　二千五百五十五

○集治監二十九ヶ所ノ囚人月表　三百四十八

○重軽罪刑ノ三ヶ月毎ニ製スル表（軽罪裁判所二百八十二ヶ所　重罪裁判所四十九ヶ所）　千六百四十四

○「セーヌ」県破産商人ノ月表　十二

○「セーヌ」県重罪裁判所ノ二ヶ月毎ニ製スル所ノ表　二十四

○故免スヘキ徒刑囚ノ三ヶ月毎ニ製スル所ノ表　四

○捜索中ナル者ノ人相表　十

○行政処分ニヨリテ仏國ヨリ放逐セラレタル外國人ノ人相表　十二

○「セーヌ」軽罪裁判所公判日表　三百

此外ニ特赦又ハ減刑ノ沙汰ヲ被ムリン者ノ呑類陸海軍裁判所ニ於テ処刑ヲ受ケシ者ノ呑類ヲ加ハサル可カラス

犯人履歷棚

一　設置ノ旨意

二　場所

三　履歷棚

四　履歷呑

五　関係官吏

六　執行規則

付履歷呑雛形

一　設置ノ旨意

大旨意ハ裁判所ニ於テ被告人ノ履歴ヲ保存シ再犯ノ時ノ参考ト為スニアリ然レトモ猶其他ニ陪審人、撰挙人、懲兵応募者、官吏志願人等ノ権利ノ有無ヲ調査シ若シクハ民間ノ契約取引上互ニ他ノ人トナリヲ推量スルヲ得ルノ効用アリ

二　場所

履歴ヲ保存シ置クヘキ場所ヲ居住ノ地ト為スヲ或ハ出生ノ地ト為スヘキヲハ久シク問題トナツテアリシガ終ニ第二ノ方ト決定シタリ故ニ各犯人ノ履歴ノ湊合シ来ル所ハ出生シタル

縣地ノ始審裁判所ノ呑記局トス（千八百五十年十一月六日司法卿回達）

三　棚

履歴棚トハ（銭湯ノ桝ノ如ク）一定ノ大サニ仕切リヲ設ケタル箱棚ナリ○各裁判所ノ呑記局ニ於テ身分証呑ヲ保存スル所ト同一ノ場所ニ之レヲ据置ク○仕切ニ「アベセ」ノ記号ヲ付シ管内ニ出生シタル犯人ノ姓名ノ頭字「アベセ」ノ順序ニ従ヒ相当ノ仕切中ニ其履歴呑ヲ貯フ○仕切中ニ於テモ尚ホ捜索ヲ容易ナラシムル為メニ各犯人ノ履歴呑ヲ一纏シテ紙袋ニ入レ上ニ姓名ヲ呑シ捻テノ紙袋ヲ年月ノ順序ニ従テ積重テ置クモノトス

四　履歴呑

履歴呑ニ二種アリ

第一号履歴呑　第二号履歴呑

第一号履歴呑ハ一箇人ノ身体ニ関スル犯罪及ヒ裁判言渡ヲ証明スルノ目的ニテ永久出生ノ地ノ履歴棚ニ保存スルモノナリ

第二号履歴呑ハ人ヲ履歴呑抜萃ト云フ第一号履歴呑ニ証明シアル以前ノ犯罪ノ抜萃ナリ検察官、行政官或ハ一私人ヨリノ請求ニ応シテ始審裁判所ノ呑記之ヲ附与スヘシ

二種ノ履歴呑ハ同一ノ大サナリ即チ三十五「センチーム」ノ印紙ノ大サニシテ強厚ナル紙ヲ用ヒ且一定ノ体裁ニ従ヒテ製スヘシ

第一号履歴書ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

一　犯人ノ姓

二　同名及ヒ異名

三　同父母ノ姓名

四　同年齢、出生ノ場所、及ヒ年月日、住所、職業

五　身分（結婚者ナレハ妻ノ姓名及ヒ結婚式挙行ノ場所）

六　人相

七　裁判言渡ヲ為シタル裁判所、処刑ノ日付、刑ノ種類及ヒ期限、犯罪ノ性質、適用シタル刑法ノ箇条（書式ハ「某日某裁判所ノ確定裁判ヲ以テ何々ノ重罪若シクハ軽罪ノ為ノニ第何条ヲ適用シテ何々ノ刑ニ処セラレタリ」トナス）

八　調製ノ日付

九　言渡ヲナシタル裁判所ノ印章同裁判所（軽罪又ハ重罪）ノ書記供ニ検事ノ署名及ヒ管轄控訴院検事長ノ署名

十　（左方上部ニ）言渡ヲ為シタル裁判所ノ名（再出）及ヒ履歴書ヲ送付スヘキ棚ノ据ヘアル始審裁判所ノ名

第二号履歴書ニハ最初ニ「犯人出生地ノ裁判所ノ名」ヲ記載スルヿ猶第一号書ノ如シ次テ左ノ事項ヲ記ス

一　姓名及ヒ異名

二　出生ノ場所及ヒ日付
三　父母
四　住所
五　身分
六　職業
七　人相ノ大畧
八　履歴棚ニ保存スル犯罪ノ抜萃
石ノ外昏記ノ署名及ヒ裁判所ノ印章アリ但シ
検事ノ署名アルノミ（検事長ハ署名セス）

五　関係官吏

一　昏記
二　検事
三　検事長

昏記ノ職務ハ第一号履歴昏ヲ調製シ又ハ各控訴院ヨリ送付アル同履歴昏ヲ區別シテ備付ク又ハ履歴昏抜萃ノ請求ニ応シテ付与スル等ノ事トス

検事ノ職務ハ管内ナル昏記ノ職務ヲ監督シ、管内ニテ調製スル第一号第二号履歴昏ヲ検閲シ、人民ヨリ差出ス抜萃請求ノ願ヲ可否シ、検事長ニ監督スル履歴棚ノ詳細ナル報告ヲ為スニアリ

検事長ハ二種ノ職務ヲ行フ其一ハ司法卿ノ直接通信者タル資格ニテ控訴院管内ノ検事等ニ同卿ノ命令ヲ執行セシム諭達ヲ送付シ且総体ノ監督ノ行フニアリ其二ハ始審裁判所ノ検事又ハ特

別裁判所ヨリ送達シ来レル第一号履歴書ヲ全國ノ履歴棚ノ中相当ノ所ニ廻送スルニアリ

六　執行規則

○履歴書ニ記載スヘキ裁判言渡

一　捻ヲ確定ノ刑事對審裁判及ヒ欠席裁判

二　重罪裁判所ノ言渡

三　捻ヲ確定ノ倒産言渡

四　捻ヲ確定ノ軍法會議ノ言渡

五　代言人又ハ裁判所付屬員ニ對スル懲戒処分

六　高等法院ノ裁判言渡

七　復權ノ言渡

左ニ掲クルモノハ履歴書ニ記載セス

一　違警罪處分

二　行政官ノ告訴ニ依テ罰金ノ言渡

○第一号履歴書ノ調製及ヒ検閲

○同控訴院検事局ヘ送達及ヒ検閲

○同備附ヲ為スヘキ書記局ヘ送附及ヒ備付

○中央履歴棚

○履歴書抜萃

軽罪裁判所、控訴院或ハ重罪裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ヲ記載スル為メニ書記ハ十五日毎ニ履歴書ヲ調製スヘシ但控訴及ヒ故障期限ノ経過ニ依テ裁判確定トナリタルトキニノミ履歴

昏ヲ製スヿ可キモノトス

調製シタル履歴昏ハ檢事之レヲ檢閲シ誤謬アレハ匡正スヘク正当ナレハ「裁判ニ相合ナリ」トノ記載ヲナスヘシ

檢閲済ノ履歴昏ヲ十五日毎ニ控訴院檢事局ニ廻送ス同檢事局ニ於テハ更ニ鄭重ノ檢閲ヲナシ而後タ檢事長ヨリ十五日以内ニ備付ヲナスヘキ裁判所ノ昏記局(犯人出生ノ地)ニ送付スヘシ

出生地ノ裁判所ニ履歴ノ到達スル片ハ檢事ヨリ昏記ニ付ケシ昏記ハ出産証昏ノ帳簿ニ付テ管内ニ出生シタル者ニ相違ナキヤヤ否ヲ調査シ相違ナキハ履歴棚ニ備付ヲナシ若シ管内ニ出産証昏存在セサルモノナル片ハ「出産証昏之レナシ」トノ記載ヲナシテ檢事ニ返付シ檢事ヨリ司法卿ニ宛テ送付スヘシ(司法卿ハ之レヲ中央履歴棚ニ備ヘシムヘシ)

出生ノ地ノ不明ナル者及ヒ外國人ノ履歴昏ハ從前居住ノ地或ハ犯罪ノ地ノ昏記局ニ備付ヲナシタルトモ不便ナルヲ以テ千八百五十五年以後司法省中ノ記録局ニ中央履歴棚ヲ設ケ外國出生ノ者、出生地ノ不明ナル者、殖民地出生ノモノヽ履歴ハ悉ク之レニ備付ヲナスヿトナレリ

何人ト雖モ他人ノ履歴昏ヲ得ント欲セハ其人出生地ノ裁判所檢事ニ請願ヲ為スノ権アリ檢

事ニ於テ正当ノ理由アリト認ムルキハ拔萃ヲ付与スヘク然ラサレハ請願ヲ却下スヘシ行政官ヨリ請求アルキモ亦タ檢事ニ於テ理由ノ如何ヲ調査スルコトヲ要スヽ只タ司法部内ノ官衙ヨリ請求スルキノヽ必ス付与スヘシ

附与スヘキ場合ニハ戸籍記先ツ出産証戸ノ帳簿ニ付テ当人ノ出産如何ヲ調査シ出産証戸ナキキハ付与スヘキ履歴戸（但第二号）ニ「何某当管内ニ出産証戸ナシ」トノヽ記載スヘシ出産証戸アルキハ履歴棚ヲ調査シ犯罪履歴ナキ者ナレハ履歴戸（第二号）ニ「無」ノ一字ヲ大戸シテ付与スヘシ

戸記履歴戸ヲ調製スルキハ毎兼一定ノ税金ヲ裁判所費用ノ内ヨリ給与シ人民ノ請求ニ依テ調製スルキハ人民ヨリ徴収セシムヘシ

第一号履歴書雛形（千八百五十六年七月一日司法卿廻達）

履歴書

某裁判所ノ書記局ニ「アベセ」順ニ従ヒ備付

何某（姓名及異名）

父何某

母何某

何年何月出生当何年何月

某州某縣出生某縣居住

何営業

何年何月何日分控訴院又ハ軽罪裁判所ノ裁判ヲ以テ何々ノ重罪又ハ軽罪ノ為ニ第何条ノ適用ニ依テ何々ノ刑ニ処セラレタリ

告知

未婚者

已婚者

鰥寡
子何人
人相
、、、、
、、、、、

右撮録相違無之候也
月日

検事局ニ於テ検閲ス
検事　手署

昏記長
某　手署

某控訴院又
某始審裁判所　裁判所ノ印章

某控訴院検事局ニ於テ検閲ス
検事長　手署

第二号履歴昏離形

抜萃　某裁判所履歴摘

何某
何年何月
某縣出生
父何某
母何某
某縣居住
未婚又ハ既婚（身分）
営業

右之者ニ関シ履歴摘ニ「アベセ」順ニ従ヒ備付有之処刑履歴昏ノ抜萃左ノ如シ

処刑ノ年月	控訴院又ハ裁判所	重罪又ハ軽罪ノ性質	刑ノ種類及ヒ期限	記事

右抜萃相違無之候也

月日

検事局ニ於テ検閲ス

検事

裁判所印章

昏記ヲ署

行政規則

第一章　政治ニ関スル規則

第一節　撰挙権

府県邑会議員撰挙ニ関スル法

千八百七十四年七月七日ノ法

代議士撰挙法

千八百七十五年十一月三十日法

元老院議官撰挙法

千八百七十五年八月二日法

第二節　租税投票権

千八百七十五年二月二十四日

國憲法

千八百七十一年九月十六日会

計二関スル法

第三節　兵役

千八百七十二年七月二十七日

法

千八百七十三年七月二十四日

法

千八百七十五年三月十三日法

千八百七十八年六月一日法

第四節　建白請願

請願

千八百五十二年十二月十八

日布達

建白

千八百七十五年二月二十四

日法

第三章

第一節　人權ニ關スル規則

瘋癲人取締

千八百三十八年六月三十日法

旅行免狀

千八百〇七年九月十八日布達

傳染病豫防規則

千八百二十二年三月三日法

千八百七十六年二月二十二日布達

無籍乞丐取締

刑法二百六十九条ヨリ二百八十二条マテ

千八百〇八年七月五日布達

外國人追放規則

千八百四十九年十二月三日

法

第二節　法律上平等ノ原則ニ基因スル諸規則

刑法第二百五十九条（貴族ノ特権ハ剥奪セラレタレトモ其ノ称号ハ子ニ世襲セラレタルモノヲ罰ス）

何人ト雖モ官吏トナリ勲章ヲ受クルノ権アル1ヲ掲クル共和十年第八月ノ法

武器所有ヲ諸人ニ許ス千八百十一年五月十七日ノ布達

猟権ニ関スル千八百六十一年四月十三日ノ布達及ヒ千八百四十四年五月三日ノ法

漁権ニ関スル千八百二十九年四月十五日ノ法、五十二年一月九日布達、五十

三年七月四日同上、六十年七月二十八日ノ法、六十五年五月三十一日法等

第三節　集会ノ権及ヒ結社ノ権

集会ニ関スル千八百五十二年三月二十五日ノ布達

同上　六十八年六月六日ノ法

同上　八十一年四月ノ法

四十八年六月七日ノ法

結社ノ権ニ関スル刑法二百九十一条及ヒ千八百三十四年四月十日ノ法

特別ノ結社ニ関スル千八百七十二年三月十四日ノ法

職工ノ結社及ヒ職工元締ノ結社ニ関スル千七百九十一年六月十四日ノ法

千八百六十四年五月二十五日ノ法

同千八百八十年十一月二十二日法律

草稿

第四節　出版ノ自由

千八百十九年六月九日ノ法

五十二年二月十七日ノ布達

六十八年五月十一日ノ法

七十一年七月六日ノ法（証拠金）

七十一年四月十五日ノ法（犯罪）

七十年九月十日ノ布達（印刷人）

七十五年十二月二十九日ノ法

（読賣人）

八十年六月十七日（同上）

八十一年二月十七日（総体ニ関係ス）

第五節　職業（商法、工藝）ノ自由（職業ノ自由ニ制限ヲ設クル特別ノ法）

耕作ノ自由制限

煙草ノ耕作（千八百十六年四月二十八日ノ法）

交林ノ開拓（交林法及ヒ五十九年六月十八日ノ法）

樹木移付（千八百六十年七月二十八日ノ法）

鑛業（千八百十年）

獵漁業

製造ノ自由制限

火藥製造、煙草、牌子、早附木、印紙貨幣、賞牌ノ製造

武器ノ製造（三十四年五月二十四日ノ法）

健康ニ害アル製造物（六十六年十二月三十一日ノ布達）

石油製造（七十三年五月十九日布達）

危険物運搬（七十年六月十八日ノ法）

職業ノ時間ニ制限ヲ設クル四十八年九月九日ノ法

安息日ノ労働（千八百八十年七月十二日ノ法）

幼年職工ノ保護ヲ目的トスル七十四年五月十九日ノ法

商法ノ自由制限

武器商（千八百三十四年五月二十四日ノ法）

石油商（七十三年五月十九日）

印刷物読賣、屠牛

入市税

賣買ヲ禁スル物品（共和三年第十月六日ノ法）

政府ノ許可ヲ要スル商法（千八百五十一年十二月二十九日布達、千八百八十年七月十七日ノ法、五十二年二月十七日布達）

二年三月二十五日布達、五十二年

肉或ハ麺包ヲ以テ納税スルコトヲ要スル商法（千七百九十一年七月十九日ノ法）

政府ノ検印或ハ製造人商法人ノ証票ヲ付スルコトヲ要スル物品

五十七年六月二十六日ノ法）

賣薬商（共和十一年第七月二十一